

令和4年度
過労死等に関する実態把握のための
労働・社会面の調査研究

調査報告書

(芸術・芸能実演家調査)

令和5年5月

労働安全衛生総合研究所
社会労働衛生研究グループ

令和4年度 過労死等に関する実態把握のための労働・社会面の調査研究
調査報告書（芸術・芸能実演家調査）

令和5年5月31日発行

研究班構成

- 高橋 正也（労働安全衛生総合研究所 社会労働衛生研究グループ 部長）
小林 秀行（同研究所 同グループ 研究員、現 高知県立大学 准教授）
加島 遼平（同研究所 同グループ 研究員）
王 薈琳（同研究所 同グループ 研究員）
佐々木 毅（同研究所 産業保健研究グループ 部長）

独立行政法人労働者健康安全機構

労働安全衛生総合研究所 社会労働衛生研究グループ

214-8585 川崎市多摩区長尾 6-21-1

目次

要旨	1
1 はじめに	3
2 調査方法	4
3 性・年齢・職種別集計結果	7
4 各種状況別メンタルヘルス・主観的幸福度・睡眠時間	46
5 各種心理的負荷のある出来事の実験の有無による違い	53
付録.....	58

要旨

芸術・芸能(実演)分野の仕事は人々に夢と希望を与えるものである。しかし、世間の華やかなイメージの裏で、過重労働や心理的負荷、また生活保障が十分ではない可能性が考えられる。我々は、把握が十分になされていない芸術・芸能(実演)分野に従事する人々の働き方の実態を捉えることを目的とし、アンケート調査を行った。

芸術・芸能(実演)分野の38団体に対し、2022年10～12月にかけて団体所属者(個人事業主として又は雇用契約等に基づき活動する芸術・芸能従事者(実演家))1,957名へ質問紙(web回答可能)の郵送を依頼した。1,957名のうち669名から回収し(単純回収率34.2%)、無効票を除いた640票のデータを有効として(有効回答率32.7%)各種集計を行った。

年齢階層別・職種別にクロス集計を行うと、以下のような特徴が見受けられた。第一にスケジュール上のオフ日では、週3日以上の日相当の割合は全体で42.0%あり、一見すると休みが多いように見えた。しかし、オフの日には自主的な稽古等の仕事に関連した取り組みに充てる割合が高く、これらの日数を差し引いた実質的な休日数を算出すると、週3日以上の日相当の割合は全体で17.6%であった。第二に総拘束時間が週60時間を超える割合は、美術家(31.1%)、俳優・スタントマン(20.9%)、音楽・舞踊・演芸(17.9%)が際立って高く、他の職種は10%未満であった。これら3職種では、「芸術・芸能分野の実演の仕事(稽古等を含む)」の割合が他の職種よりも低かった。第三に収入について、年齢階層別では30代以下の「芸術・芸能分野の実演の仕事(稽古等を含む)」の占める割合が低く、職種別では美術家、俳優・スタントマン、音楽・舞踊・演芸の「芸術・芸能分野の実演の仕事(稽古等を含む)」の占める割合が5割以下と低かった。第四にうつ・不安障害の疑い(重度も含む){K6スコア(うつ・不安障害の発生可能性やその重篤性を示す指標)が10点以上}がある者の割合は、俳優・スタントマンと美術家が3割以上と高かった。第五にセクハラ関連の出来事(過去1年間に経験したものに限らない)の割合は、男性は4.0%であったのに対し女性では20.2%と顕著な差が見られた。職種別では、声

優・アナウンサー(28.1%)、俳優・スタントマン(18.8%)、文筆・クリエイター(17.5%)の経験割合が高かった。

第一の特徴から、芸術・芸能分野においては仕事のスケジュールの有無のみで過重性が判断できるとは限らないことが示唆された。また第二、三の特徴から、特に美術家、俳優・スタントマン、音楽・舞踊・演芸の3職種では、実演以外の仕事による収入も重要であることが示唆された。第五の特徴から、セクハラ関連の心理的負荷のある出来事は女性の方が多く直面していた。

また、K6 スコアに対して心理的負荷のある出来事の経験に違いがあるかを年齢・性別・総収入・週拘束時間を調整した回帰分析によって検討した。心理的負荷のある出来事30項目の内26項目において出来事を経験した者のK6スコアが統計的に有意に高く、心理的負荷のある出来事の経験者はメンタルヘルスの状態が悪いことが示唆された。特に各種調整後のK6スコアの差異が統計的に有意に高い項目は、「仕事上の友人と腹を割って話せない」、「性的関係を迫られた」、「頼れる人が身近にいない」であった。

本調査は、協力を依頼し承諾した38団体の所属者を対象としており、当該団体に所属しない個人等のデータは含まれないことから日本の芸術・芸能実演家全体を代表した調査結果とは言い難い点、横断調査の為に生じる逆因果関係及び交絡因子を調整しきれていない可能性があることから因果関係に言及することが困難である点には注意を払う必要がある。このような限界はあるものの、把握が難しい日本の芸術・芸能実演家の働き方の実態と各種健康関連指標について計640名という規模で調査したという点で、本調査結果は意義があると考えられる。今後はこのような限界点も踏まえつつ、更なる芸術・芸能分野のデータ蓄積の進展が望まれる。

1 はじめに

芸術・芸能分野は、令和 3 年に見直された「過労死等の防止のための対策に関する大綱」において、重点業種等に準じて、社会情勢の変化に応じて、調査研究の対象に追加する業態等として例示された。芸術・芸能(実演)分野は、過重性の実態が指摘されてはいるものの、これまで、働き方の実態が十分に把握されてこなかった。

このような背景から、我々は、芸術・芸能(実演)分野に従事する人々の働き方の実態やメンタルヘルス状況等を検討することを目的とし、芸術・芸能分野の実演家に対してアンケート調査を行った。

2 調査方法

2.1 対象者と調査時期・期間

2022年10～12月にかけて芸術・芸能(実演)分野の38団体所属者1,957名へ質問紙(web回答可能)の郵送を依頼した。1,957名のうち669名を回収し(単純回収率34.2%)、無効票を除いた640票のデータを有効として(有効回答率32.7%)各種集計を行った。

2.2 調査票(付録)

使用した調査票は付録に収録した。調査票は以下に示す29の質問事項から構成される。

- 1:性別、2:年齢、3:活動年数、4:職種、5:契約や実演方法の決定等の状況、
- 6:裁量の有無、7:休日数・稽古日数・拘束時間・収入、8:仕事時間の裁量、
- 9:仮に資産が十分あった場合の仕事の継続意欲、
- 10:仮に収入が全く見込めない場合の仕事の継続意欲、
- 11:心理的負荷のある出来事の経験、12:睡眠時間、13:仕事での運動習慣、
- 14:日常での運動習慣、15:飲酒習慣、16:喫煙習慣、17:K6スコア、
- 18:ワーク・エンゲイジメント、19:健康診断受診の有無、
- 20～24:ケイパビリティ、25:主観的幸福度、26:学歴、
- 27:配偶者の有無、28:世帯人数、29:世帯年収

2.3 有効回答者とクロス集計に用いる個人属性(表 2.1, 表 2.2, 表 2.3)

有効回答者について性別、年齢階層別、職種別に集計を行った。

有効回答者の性別についての集計を表 2.1 で示す。性別回答は、「男性」(51.3%)、「女性」(46.4%)、「答えたくない・無回答」(2.3%)であった。以降の男女別集計では、「答えたくない・無回答」の回答者 15 名を集計対象外として、性別集計結果を示した。

有効回答者の職種についての回答を表 2.2 で示す。職種についての元の回答は、「その他の職種」とした回答者が 104 名(有効回答の 16.3%)存在した。その他の回答者の多くは、自身の職種名を自由記述欄にて具体的に回答した。このような背景から、職種の区分について有識者の協力を得て、各種具体的回答と元の設問項目の分類を最終的に 6 職種の区分に分類し、分類不能者や非実演職を答えた個人については「その他(割り振り不能・非実演等)」へと分類した。有効回答者に占める割合の高い上位 3 職種は、音楽・舞踊・演芸(27.8%)、伝統芸能(22.7%)、俳優・スタントマン(15.8%)であった。調査票では、職種の回答は一つの申告を求めているものの、上記の 6 職種の区分に割り当ててもなお複数職者として分類される回答者が 15 名存在した。以降の職種別集計においては、複数職者は集計対象外として職種別集計結果を示した。

有効回答者の年齢階層についての回答を表 2.3 で示す。年齢階層の回答は、30 代以下(35.6%)、40~50 代(46.7%)、60 代以上(17.5%)、無回答(0.2%)であった。以降の年齢階層別集計においては、無回答者は集計対象外として年齢階層別集計結果を示した。

更に、各設問には無回答者が存在するため、回答合計者数は各設問によって異なっている。

表2.1 有効回答者の性別

	n	%
男性	328	51.3
女性	297	46.4
答えたくない	15	2.3
合計	640	100.0

表2.2 有効回答者の職種

	n	%
俳優・スタントマン	101	15.8
声優・アナウンサー	32	5.0
伝統芸能	145	22.7
音楽・舞踊・演芸	178	27.8
美術家	97	15.2
文筆・クリエイター	63	9.8
その他(割り振り不能・非実演等)	9	1.4
複数職種選択者	15	2.3
合計	640	100.0

表2.3 有効回答者の年齢階層

	n	%
30代以下	228	35.6
40～50代	299	46.7
60代以上	112	17.5
無回答者	1	0.2
合計	640	100.0

3 性・年齢・職種別集計結果

本章では、性・年齢・職種別に各種属性及び状況についての検討結果を概説する。

3.1 個人属性

3.1.1 男女別個人属性(表 3.1.1)

年齢について、「40～50 代」の回答者の割合は男女ともに最も高く、男性(47.4%)、女性(46.5%)であった。

職種では、男性は伝統芸能(29.9%)、音楽・舞踊・演芸(23.6%)、俳優・スタントマン(18.2%)の順で高く、女性では音楽・舞踊・演芸(34.6%)、伝統芸能(17.1%)、美術家(14.7%)の順で高かった。

活動年数について、30 年以上の割合は男女ともに最も高く、男性(35.6%)、女性(26.4%)であった。

学歴では、大学又は大学院と答えた割合が、男性(55.8%)、女性(59.7%)であった。

3.1.2 男女別世帯状況(表 3.1.2)

配偶者がいる者の割合は、男性(55.2%)、女性(46.1%)であった。未婚の者の割合は、男性(33.8%)、女性(44.4%)であった。

世帯人数では、2 人と回答した者の割合は男女ともに最も高く、男性(38.5%)、女性(36.0%)であった。

世帯年収について、400 万円未満と回答した者の割合は、男性(55.6%)、女性(46.8%)であった。また、「回答しない・わからない」とした者も男性で 9.9%、女性で 10.2%いた。

3.1.3 男女別生活習慣と健診受診状況(表 3.1.3)

仕事で身体を動かす習慣の有無について、「ほぼ毎日」と回答した者の割合は男女ともに最も高く、男性(40.3%)、女性(42.8%)であった。仕事以外で身体を動かす習慣の有無では、女性は「ほぼ毎日」(37.5%)が最も高かった一方、男性は「あまりない」(33.8%)が最も高かった。

飲酒習慣の有無では、男性は「ほぼ毎日」(33.4%)が最も高かった一方、女性は「飲まない」(43.7%)が最も高かった。

喫煙習慣の有無について、「吸わない」者の割合は男女ともに最も高く、男性(54.3%)、女性(79.0%)であった。「吸っている」者の割合は、男性(26.2%)、女性(10.2%)であった。

健康診断の受診の有無については、男性(50.3%)、女性(48.7%)と約半数の者が受診をしていた。

表3.1.1 男女別個人属性

	男性		女性		全体	
	n	%	n	%	n	%
年齢						
30代以下	101	30.9	118	39.7	219	35.1
40~50代	155	47.4	138	46.5	293	47.0
60代以上	71	21.7	41	13.8	112	18.0
合計	327	100.0	297	100.0	624	100.0
職種						
俳優・スタントマン	58	18.2	39	13.4	97	15.9
声優・アナウンサー	13	4.1	19	6.5	32	5.3
伝統芸能	95	29.9	50	17.1	145	23.8
音楽・舞踊・演芸	75	23.6	101	34.6	176	28.9
美術家	47	14.8	43	14.7	90	14.8
文筆・クリエイター	28	8.8	34	11.6	62	10.2
その他	2	0.6	6	2.1	8	1.3
合計	318	100.0	292	100.0	610	100.0
活動年数						
5年未満	15	4.9	25	8.9	40	6.8
5~9年	34	11.1	33	11.8	67	11.4
10~14年	43	14.1	54	19.3	97	16.6
15~19年	29	9.5	29	10.4	58	9.9
20~24年	46	15.0	43	15.4	89	15.2
25~29年	30	9.8	22	7.9	52	8.9
30年以上	109	35.6	74	26.4	183	31.2
合計	306	100.0	280	100.0	586	100.0
学歴						
小・中学校	11	3.4	4	1.4	15	2.4
高校	83	25.5	45	15.3	128	20.6
専門学校	30	9.2	33	11.2	63	10.1
短大・高専	7	2.2	28	9.5	35	5.6
大学	146	44.8	127	43.1	273	44.0
大学院	36	11.0	49	16.6	85	13.7
その他（養成所など）	13	4.0	7	2.4	20	3.2
回答しない	0	0.0	2	0.7	2	0.3
合計	326	100.0	295	100.0	621	100.0

表3.1.2 男女別世帯状況

	男性		女性		全体	
	n	%	n	%	n	%
配偶者						
いる	181	55.2	137	46.1	318	50.9
未婚	111	33.8	132	44.4	243	38.9
離婚	23	7.0	19	6.4	42	6.7
死別	7	2.1	2	0.7	9	1.4
回答しない	6	1.8	7	2.4	13	2.1
合計	328	100.0	297	100.0	625	100.0
回答者の世帯人数						
1人	87	26.61	77	25.93	164	26.28
2人	126	38.53	107	36.03	233	37.34
3人	69	21.1	68	22.9	137	21.96
4人以上	43	13.15	42	14.14	85	13.62
回答しない	2	0.61	3	1.01	5	0.8
合計	327	100	297	100	624	100
回答者の世帯年収						
100万円未満	21	6.5	23	7.8	44	7.1
100~199万円	49	15.1	35	11.9	84	13.6
200~299万円	55	17.0	44	14.9	99	16.0
300~399万円	55	17.0	36	12.2	91	14.7
400~499万円	31	9.6	23	7.8	54	8.7
500~599万円	15	4.6	18	6.1	33	5.3
600~699万円	19	5.9	22	7.5	41	6.6
700~799万円	10	3.1	10	3.4	20	3.2
800~899万円	10	3.1	11	3.7	21	3.4
900万円以上	27	8.3	43	14.6	70	11.3
回答しない・わからない	32	9.9	30	10.2	62	10.0
合計	324	100.0	295	100.0	619	100.0

表3.1.3 男女別生活習慣

	男性		女性		全体	
	n	%	n	%	n	%
仕事で体を動かす習慣						
あまりない	99	30.7	91	31.2	190	30.9
月に数回程度	61	18.9	42	14.4	103	16.8
週に1回以上	33	10.2	34	11.6	67	10.9
ほぼ毎日	130	40.3	125	42.8	255	41.5
合計	323	100.0	292	100.0	615	100.0
仕事以外(余暇等)で体を動かす習慣						
あまりない	109	33.8	61	20.8	170	27.6
月に数回程度	87	26.9	66	22.5	153	24.8
週に1回以上	45	13.9	56	19.1	101	16.4
ほぼ毎日	82	25.4	110	37.5	192	31.2
合計	323	100.0	293	100.0	616	100.0
飲酒習慣						
飲まない	99	30.4	129	43.7	228	36.7
週1～2日程度	82	25.2	79	26.8	161	25.9
週3～5日程度	36	11.0	44	14.9	80	12.9
ほぼ毎日	109	33.4	43	14.6	152	24.5
合計	326	100.0	295	100.0	621	100.0
喫煙習慣						
吸わない	178	54.3	233	79.0	411	66.0
過去に吸っていた	64	19.5	32	10.9	96	15.4
吸っている	86	26.2	30	10.2	116	18.6
合計	328	100.0	295	100.0	623	100.0
健康診断の受診の有無						
受けた	163	50.3	144	48.7	307	49.5
受けていない	154	47.5	150	50.7	304	49.0
覚えていない・ 分からない	7	2.2	2	0.7	9	1.5
合計	324	100.0	296	100.0	620	100.0

3.2 働き方と収入

3.2.1 年齢階層別休日と自主的な稽古(表 3.2.1)

年齢階層別に、1か月の休日と自主的な稽古等について集計を行った。

スケジュール上の休日数について、全ての年齢階層で「7～10日(週2日休日相当)」の者の割合が最も高く、30代以下(26.4%)、40～50代(25.1%)、60代以上(29.9%)であった。

オフの日に自主的な稽古等を実施する比率(スケジュール上の休日数のうち自主的な稽古等を実施した日数)が「76～100%」の割合は、30代以下(31.7%)、40～50代(37.0%)、60代以上(30.4%)であった。

オフの日に自主的な稽古等を実施すると身体や精神の休息が十分でないことが考えられることから、上記のスケジュール上の休日数から稽古等の実施日数を差し引くことで実質的な休日数を算出した。スケジュール上の休日数から分布が変化し、稽古等を除いた実質的な休日数では「0～3日(週1日未満休日相当)」の割合が全ての年齢階層で最も高く、30代以下(50.3%)、40～50代(50.0%)、60代以上(34.0%)であった。

3.2.2 職種別休日と自主的な稽古(表 3.2.2a, 表 3.2.2b)

職種別に、1か月の休日と自主的な稽古等について集計を行った。

スケジュール上の休日数の最も高い割合であった日数は、俳優・スタントマンは「24 日以上(週 6 日以上休日相当)」(41.2%)、他の職種では「7~10 日(週 2 日相当)」の割合が最も高く、声優・アナウンサー(30.0%)、伝統芸能(33.1%)、音楽・舞踏・演芸(24.7%)、美術家(26.7%)、文筆・クリエイター(36.7%)であった。

オフの日に自主的な稽古等を実施する比率では、「26~50%」が最も高かったのは、声優・アナウンサー(33.3%)、文筆・クリエイター(45.7%)であった。他の職種では、「76~100%」が最大で、俳優・スタントマン(25.0%)、伝統芸能(39.4%)、音楽・舞踏・演芸(34.8%)、美術家(58.0%)であった。

稽古等を除いた実質的な休日数を確認すると、文筆・クリエイター以外の職種で、「0~3 日(週 1 日未満休日相当)」の割合が最も高く、俳優・スタントマン(27.8%)、声優・アナウンサー(41.7%)、伝統芸能(51.4%)、音楽・舞踏・演芸(55.0%)、美術家(70.4%)であった。文筆・クリエイターにおいては、「4~6 日(週 1 日休日相当)」(31.6%)が最大であった。

3.2.3 年齢階層別各種仕事の拘束時間(表 3.2.3)

年齢階層別に、「芸術・芸能分野の実演の仕事(稽古等を含む)」(以下「実演の仕事」と略する)、「芸術・芸能分野の技術技能を活かした仕事(実演講師等)」(以下「芸術・芸能関係の仕事」と略する)、「芸術・芸能分野以外の仕事」(以下「芸術・芸能以外の仕事」と略する)の3種の仕事における週拘束時間について集計を行った。

各種仕事について、過去1か月に1時間以上その種の仕事をした者の集計を行った。総拘束時間と各種仕事の拘束時間の比率については、3種のうち1つ以上の仕事に回答がある場合、他の無回答の仕事については0時間として算出した。また、飲食や睡眠等の最低限度必要とされる時間を1日7時間であると仮定し(週168時間から7時間×7日=49時間を引くと119時間)、総拘束時間が120時間以上を異常値とみなし、総拘束時間が120時間未満と回答した者について集計した。

各種仕事の拘束時間について、全ての年齢階層と仕事について「20時間未満」の割合が最も高かった。総拘束時間をみると、年齢階層が高いほど、拘束時間が短い傾向があった。各種仕事の総拘束時間に占める比率では、全ての年齢階層で「実演の仕事」が最大であり、30代以下(62.7%)、40～50代(60.0%)、60代以上(62.4%)であった。

3.2.4 職種別各種仕事の拘束時間(表 3.2.4a, 表 3.2.4b)

職種別に、各種仕事の拘束時間等について集計を行った。

職種別各種仕事の拘束時間は、「実演の仕事」は美術家(30.9%)及び文筆・クリエイター(37.5%)においては「20時間以上40時間未満」の割合が最も高かったが、他の職種においては「20時間未満」の割合が最も高かった。「芸術・芸能関係の仕事」においては「20時間未満」の割合が全ての職種で最も高かった。「芸術・芸能以外の仕事」は俳優・スタントマン(39.4%)及び美術家(42.1%)においては「20時間以上40時間未満」の割合が最も高かったが、他の職種においては「20時間未満」の割合が最も高かった。

総拘束時間では、俳優・スタントマン「20 時間以上 40 時間未満」(33.7%)、声優・アナウンサー「40 時間以上 60 時間未満」(40.0%)、伝統芸能「20 時間未満」(41.2%)、音楽・舞踏・演芸「20 時間以上 40 時間未満」(33.6%)、美術家「40 時間以上 60 時間未満」(33.8%)、文筆・クリエイター「20 時間以上 40 時間未満」(34.6%)がそれぞれ最大であった。

総拘束時間に占める比率では、全ての職種で「実演の仕事」が最大であり、俳優・スタントマン(51.7%)、声優・アナウンサー(69.4%)、伝統芸能(72.5%)、音楽・舞踏・演芸(55.4%)、美術家(62.0%)、文筆・クリエイター(69.9%)であった。「芸術・芸能関係の仕事」の割合が最も高かった職種は音楽・舞踏・演芸(27.9%)、「芸術・芸能以外の仕事」の割合が最も高かった職種は俳優・スタントマン(37.9%)であった。

3.2.5 年齢階層別各種仕事の月間収入(表 3.2.5)

年齢階層別に、上記の 3 種の仕事における月間収入等について集計を行った。

各種仕事について、1 円以上と回答をした者について集計を行った。総拘束時間と拘束時間の比率については、3 種のうち 1 つ以上の仕事に回答がある場合、他の無回答の仕事は 0 円として算出した。また、調査票では週当たりの収入を尋ねているため、31/7 倍することで月収相当額を推計した。

各種仕事の月間収入について、全ての年齢階層と仕事について「10 万円未満」の割合が最も高かった。

総月間収入では、40～50 代では「40 万円以上」(32.7%)、60 代以上では「40 万円以上」(29.8%)がそれぞれ最大であった。30 代以下では「40 万円以上」、「15 万円以上 20 万円未満」が同じ 19.5%と最大であった。

総月間収入に占める比率では、全ての年齢階層で「実演の仕事」が最大であった。また、年齢階層が高いほど「芸術・芸能以外の仕事」の収入に占める割合が低い傾向であった。

3.2.6 職種別各種仕事の月間収入(表 3.2.6a, 表 3.2.6b)

職種別に、各種仕事の月間収入等について集計を行った。

職種別総月間収入では、俳優・スタントマンでは、「15 万円以上 20 万円未満」(17.3%)が最大で、それ以外の職種では「40 万円以上」が最大であった。

総月間収入に占める比率では、俳優・スタントマンと音楽・舞踏・演芸の他は、「実演の仕事」の割合が最も高く、声優・アナウンサー (63.0%)、伝統芸能 (74.1%)、美術家(44.7%)、文筆・クリエイター(65.4%)であった。俳優・スタントマンでは「芸術・芸能以外の仕事」(52.6%)、音楽・舞踏・演芸では「芸術・芸能関係の仕事」(43.7%)が最大であった。

表3.2.1 年齢階層別休日と自主的な稽古

	30代以下		40~50代		60代以上		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
スケジュール上の休日数								
0~3日 (週1日未満休日相当)	50	23.6	47	16.4	6	6.9	103	17.6
4~6日 (週1日休日相当)	34	16.0	39	13.6	10	11.5	83	14.2
7~10日 (週2日休日相当)	56	26.4	72	25.1	26	29.9	154	26.3
11~14日 (週3日休日相当)	6	2.8	12	4.2	5	5.7	23	3.9
15~19日 (週4日休日相当)	16	7.5	27	9.4	14	16.1	57	9.7
20~23日 (週5日休日相当)	9	4.2	32	11.1	12	13.8	53	9.0
24日以上 (週6日以上休日相当)	41	19.3	58	20.2	14	16.1	113	19.3
合計	212	100.0	287	100.0	87	100.0	586	100.0
オフの日に自主的な稽古等の実施割合 (注1)(注2)								
0%	21	15.1	18	9.4	5	10.9	44	11.7
1~25%	12	8.6	16	8.3	5	10.9	33	8.8
26~50%	34	24.5	50	26.0	15	32.6	99	26.3
51~75%	28	20.1	37	19.3	7	15.2	72	19.1
76~100%	44	31.7	71	37.0	14	30.4	129	34.2
合計	139	100.0	192	100.0	46	100.0	377	100.0
稽古等を除いた実質的な休日数 (注1)(注3)								
0~3日 (週1日未満休日相当)	73	50.3	100	50.0	16	34.0	189	48.2
4~6日 (週1日休日相当)	30	20.7	43	21.5	10	21.3	83	21.2
7~10日 (週2日休日相当)	15	10.3	24	12.0	12	25.5	51	13.0
11~14日 (週3日休日相当)	8	5.5	4	2.0	0	0.0	12	3.1
15~19日 (週4日休日相当)	7	4.8	10	5.0	3	6.4	20	5.1
20~23日 (週5日休日相当)	5	3.4	8	4.0	4	8.5	17	4.3
24日以上 (週6日以上休日相当)	7	4.8	11	5.5	2	4.3	20	5.1
合計	145	100.0	200	100.0	47	100.0	392	100.0

(注1)一部回答者の「オフの日の自主的な稽古日数」の回答が「スケジュール上の休日数」を超えていた。そのような個人(194名)は集計対象外とした。

(注2)オフの日に自主的な稽古等の実施割合の計算には、「オフの日の自主的な稽古日数」を「スケジュール上の休日数」で割ることで求めた。

分母に該当する「スケジュール上の休日数」が0日の者は計算不能となる為に集計対象外とした。

(注3)「スケジュール上の休日数」から「オフの日の自主的な稽古日数」を引くことで求めた。「スケジュール上の休日数」が0日の者を含む。

表3.2.2a 職種別休日と自主的な稽古

	俳優・スタントマン		声優・アナウンサー		伝統芸能		音楽・舞踊・演芸	
	n	%	n	%	n	%	n	%
スケジュール上の休日数								
0～3日 (週1日未満休日相当)	9	9.3	1	3.3	22	18.6	36	21.2
4～6日 (週1日休日相当)	10	10.3	3	10.0	12	10.2	33	19.4
7～10日 (週2日休日相当)	16	16.5	9	30.0	39	33.1	42	24.7
11～14日 (週3日休日相当)	2	2.1	1	3.3	10	8.5	3	1.8
15～19日 (週4日休日相当)	10	10.3	5	16.7	11	9.3	20	11.8
20～23日 (週5日休日相当)	10	10.3	5	16.7	12	10.2	11	6.5
24日以上 (週6日以上休日相当)	40	41.2	6	20.0	12	10.2	25	14.7
合計	97	100.0	30	100.0	118	100.0	170	100.0
オフの日に自主的な稽古等の実施割合 (注1)(注2)								
0%	13	18.1	2	8.3	6	9.1	14	11.9
1～25%	13	18.1	0	0.0	4	6.1	6	5.1
26～50%	17	23.6	8	33.3	21	31.8	27	22.9
51～75%	11	15.3	8	33.3	9	13.6	30	25.4
76～100%	18	25.0	6	25.0	26	39.4	41	34.8
合計	72	100.0	24	100.0	66	100.0	118	100.0
稽古等を除いた実質的な休日数 (注1)(注3)								
0～3日 (週1日未満休日相当)	20	27.8	10	41.7	36	51.4	66	55.0
4～6日 (週1日休日相当)	15	20.8	6	25.0	16	22.9	28	23.3
7～10日 (週2日休日相当)	9	12.5	4	16.7	11	15.7	11	9.2
11～14日 (週3日休日相当)	5	6.9	3	12.5	0	0.0	2	1.7
15～19日 (週4日休日相当)	5	6.9	0	0.0	4	5.7	7	5.8
20～23日 (週5日休日相当)	8	11.1	0	0.0	3	4.3	2	1.7
24日以上 (週6日以上休日相当)	10	13.9	1	4.2	0	0.0	4	3.3
合計	72	100.0	24	100.0	70	100.0	120	100.0

(注1)一部回答者の「オフの日の自主的な稽古日数」の回答が「スケジュール上の休日数」を超えていた。そのような個人(194名)は集計対象外とした。

(注2)オフの日に自主的な稽古等の実施割合の計算には、「オフの日の自主的な稽古日数」を「スケジュール上の休日数」で割ることで求めた。

分母に該当する「スケジュール上の休日数」が0日の者は計算不能となる為に集計対象外とした。

(注3)「スケジュール上の休日数」から「オフの日の自主的な稽古日数」を引くことで求めた。「スケジュール上の休日数」が0日の者を含む。

表3.2.2b 職種別休日と自主的な稽古

	美術家		文筆・クリエイター		その他		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
スケジュール上の休日数								
0～3日 (週1日未満休日相当)	22	24.4	6	10.0	4	44.4	100	17.4
4～6日 (週1日休日相当)	12	13.3	8	13.3	2	22.2	80	13.9
7～10日 (週2日休日相当)	24	26.7	22	36.7	1	11.1	153	26.7
11～14日 (週3日休日相当)	2	2.2	4	6.7	0	0.0	22	3.8
15～19日 (週4日休日相当)	6	6.7	4	6.7	0	0.0	56	9.8
20～23日 (週5日休日相当)	5	5.6	7	11.7	1	11.1	51	8.9
24日以上 (週6日以上休日相当)	19	21.1	9	15.0	1	11.1	112	19.5
合計	90	100.0	60	100.0	9	100.0	574	100.0
オフの日に自主的な稽古等の実施割合 (注1)(注2)								
0%	1	2.0	5	14.3	3	42.9	44	11.6
1～25%	6	12.0	3	8.6	1	14.3	33	8.7
26～50%	6	12.0	16	45.7	2	28.6	97	26.5
51～75%	8	16.0	6	17.1	0	0.0	72	19.1
76～100%	29	58.0	5	14.3	1	14.3	126	34.1
合計	50	100.0	35	100.0	7	100.0	372	100.0
稽古等を除いた実質的な休日数 (注1)(注3)								
0～3日 (週1日未満休日相当)	38	70.4	11	29.0	5	62.5	186	48.2
4～6日 (週1日休日相当)	4	7.4	12	31.6	1	12.5	82	21.2
7～10日 (週2日休日相当)	4	7.4	10	26.3	1	12.5	50	13.0
11～14日 (週3日休日相当)	1	1.9	0	0.0	0	0.0	11	2.9
15～19日 (週4日休日相当)	2	3.7	2	5.3	0	0.0	20	5.2
20～23日 (週5日休日相当)	3	5.6	0	0.0	1	12.5	17	4.4
24日以上 (週6日以上休日相当)	2	3.7	3	7.9	0	0.0	20	5.2
合計	54	100.0	38	100.0	8	100.0	386	100.0

(注1)一部回答者の「オフの日の自主的な稽古日数」の回答が「スケジュール上の休日数」を超えていた。そのような個人(194名)は集計対象外とした。

(注2)オフの日に自主的な稽古等の実施割合の計算には、「オフの日の自主的な稽古日数」を「スケジュール上の休日数」で割ることで求めた。

分母に該当する「スケジュール上の休日数」が0日の者は計算不能となる為に集計対象外とした。

(注3)「スケジュール上の休日数」から「オフの日の自主的な稽古日数」を引くことで求めた。「スケジュール上の休日数」が0日の者を含む。

表3.2.3 年齢階層別週拘束時間

	30代以下		40~50代		60代以上		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
芸術・芸能分野の実演の仕事(稽古等を含む)								
20時間未満	68	37.0	99	45.2	34	60.7	201	43.8
20時間以上40時間未満	61	33.2	75	34.3	15	26.8	151	32.9
40時間以上60時間未満	33	17.9	31	14.2	3	5.4	67	14.6
60時間以上	22	12.0	14	6.4	4	7.1	40	8.7
合計	184	100.0	219	100.0	56	100.0	459	100.0
芸術・芸能分野の技術技能を活かした仕事(実演講師等)								
20時間未満	61	67.0	103	73.1	25	78.1	189	71.6
20時間以上40時間未満	19	20.9	25	17.7	5	15.6	49	18.6
40時間以上60時間未満	9	9.9	8	5.7	1	3.1	18	6.8
60時間以上	2	2.2	5	3.6	1	3.1	8	3.0
合計	91	100.0	141	100.0	32	100.0	264	100.0
芸術・芸能分野以外の仕事								
20時間未満	38	40.0	36	41.4	11	73.3	85	43.2
20時間以上40時間未満	30	31.6	33	37.9	4	26.7	67	34.0
40時間以上60時間未満	20	21.1	17	19.5	0	0.0	37	18.8
60時間以上	7	7.4	1	1.2	0	0.0	8	4.1
合計	95	100.0	87	100.0	15	100.0	197	100.0
総拘束時間(上記3種の合計値)								
20時間未満	27	14.4	57	24.1	37	54.4	121	24.5
20時間以上40時間未満	57	30.3	88	37.1	19	27.9	164	33.3
40時間以上60時間未満	59	31.4	62	26.2	4	5.9	125	25.4
60時間以上	45	23.9	30	12.7	8	11.8	83	16.8
合計	188	100.0	237	100.0	68	100.0	493	100.0
各種仕事の総拘束時間に占める平均比率 (注)								
実演の仕事		62.7		60.0		62.4		61.4
芸術・芸能関係の仕事		14.7		21.0		24.4		19.1
芸術・芸能以外の仕事		22.6		19.0		13.2		19.5
合計	188	100.0	237	100.0	68	100.0	493	100.0

(注)「実演の仕事」は「芸術・芸能分野の実演の仕事(稽古等を含む)」と、「芸術・芸能関係の仕事」は「芸術・芸能分野の技術技能を活かした仕事(実演講師等)」と、「芸術・芸能以外の仕事」は「芸術・芸能分野以外の仕事」とそれぞれ対応する。

表3.2.4a 職種別週拘束時間

	俳優・スタントマン		声優・アナウンサー		伝統芸能		音楽・舞踊・演芸	
	n	%	n	%	n	%	n	%
芸術・芸能分野の実演の仕事(稽古等を含む)								
20時間未満	39	52.0	11	44.0	50	52.1	57	41.0
20時間以上40時間未満	21	28.0	9	36.0	32	33.3	53	38.1
40時間以上60時間未満	8	10.7	4	16.0	7	7.3	20	14.4
60時間以上	7	9.3	1	4.0	7	7.3	9	6.5
合計	75	100.0	25	100.0	96	100.0	139	100.0
芸術・芸能分野の技術技能を活かした仕事(実演講師等)								
20時間未満	15	60.0	9	69.2	38	82.6	93	78.2
20時間以上40時間未満	9	36.0	4	30.8	6	13.1	16	13.5
40時間以上60時間未満	0	0.0	0	0.0	1	2.2	6	5.0
60時間以上	1	4.0	0	0.0	1	2.2	4	3.4
合計	25	100.0	13	100.0	46	100.0	119	100.0
芸術・芸能分野以外の仕事								
20時間未満	18	29.5	6	60.0	10	58.8	28	57.1
20時間以上40時間未満	24	39.4	3	30.0	3	17.7	14	28.6
40時間以上60時間未満	14	23.0	1	10.0	4	23.5	7	14.3
60時間以上	5	8.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	61	100.0	10	100.0	17	100.0	49	100.0
総拘束時間(上記3種の合計値)								
20時間未満	17	19.8	6	24.0	40	41.2	30	21.4
20時間以上40時間未満	29	33.7	7	28.0	38	39.2	47	33.6
40時間以上60時間未満	22	25.6	10	40.0	11	11.3	38	27.1
60時間以上	18	20.9	2	8.0	8	8.3	25	17.9
合計	86	100.0	25	100.0	97	100.0	140	100.0
各種仕事の総拘束時間に占める平均比率 (注)								
実演の仕事		51.7		69.4		72.5		55.4
芸術・芸能関係の仕事		10.4		13.8		18.7		27.9
芸術・芸能以外の仕事		37.9		16.8		8.8		16.6
合計	86	100.0	25	100.0	97	100.0	140	100.0

(注)「実演の仕事」は「芸術・芸能分野の実演の仕事(稽古等を含む)」と、「芸術・芸能関係の仕事」は「芸術・芸能分野の技術技能を活かした仕事(実演講師等)」と、「芸術・芸能以外の仕事」は「芸術・芸能分野以外の仕事」とそれぞれ対応する。

表3.2.4b 職種別週拘束時間

	美術家		文筆・クリエイター		その他		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
芸術・芸能分野の実演の仕事(稽古等を含む)								
20時間未満	19	27.9	14	35.0	4	57.1	194	43.1
20時間以上40時間未満	21	30.9	15	37.5	0	0.0	151	33.6
40時間以上60時間未満	15	22.1	9	22.5	3	42.9	66	14.7
60時間以上	13	19.1	2	5.0	0	0.0	39	8.7
合計	68	100.0	40	100.0	7	100.0	450	100.0
芸術・芸能分野の技術技能を活かした仕事(実演講師等)								
20時間未満	17	47.2	10	62.5	2	66.7	184	71.3
20時間以上40時間未満	9	25.0	4	25.0	1	33.3	49	19.0
40時間以上60時間未満	9	25.0	1	6.3	0	0.0	17	6.6
60時間以上	1	2.8	1	6.3	0	0.0	8	3.1
合計	36	100.0	16	100.0	3	100.0	258	100.0
芸術・芸能分野以外の仕事								
20時間未満	11	29.0	8	57.1	1	33.3	82	42.7
20時間以上40時間未満	16	42.1	6	42.9	1	33.3	67	34.9
40時間以上60時間未満	9	23.7	0	0.0	0	0.0	35	18.2
60時間以上	2	5.3	0	0.0	1	33.3	8	4.2
合計	38	100.0	14	100.0	3	100.0	192	100.0
総拘束時間(上記3種の合計値)								
20時間未満	3	4.1	17	32.7	3	37.5	116	24.1
20時間以上40時間未満	23	31.1	18	34.6	0	0.0	162	33.6
40時間以上60時間未満	25	33.8	13	25.0	4	50.0	123	25.5
60時間以上	23	31.1	4	7.7	1	12.5	81	16.8
合計	74	100.0	52	100.0	8	100.0	482	100.0
各種仕事の総拘束時間に占める平均比率 (注)								
実演の仕事		62.0		69.9		64.2		61.6
芸術・芸能関係の仕事		17.9		15.2		3.1		18.9
芸術・芸能以外の仕事		20.1		14.9		32.6		19.5
合計	74	100.0	52	100.0	8	100.0	482	100.0

(注)「実演の仕事」は「芸術・芸能分野の実演の仕事(稽古等を含む)」と、「芸術・芸能関係の仕事」は「芸術・芸能分野の技術技能を活かした仕事(実演講師等)」と、「芸術・芸能以外の仕事」は「芸術・芸能分野以外の仕事」とそれぞれ対応する。

表3.2.5 年齢階層別月間収入

	30代以下		40~50代		60代以上		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
芸術・芸能分野の実演の仕事(稽古等を含む)								
10万円未満	35	33.0	43	27.9	10	25.0	88	29.3
10万円以上15万円未満	9	8.5	16	10.4	4	10.0	29	9.7
15万円以上20万円未満	13	12.3	16	10.4	5	12.5	34	11.3
20万円以上25万円未満	12	11.3	15	9.7	2	5.0	29	9.7
25万円以上30万円未満	7	6.6	7	4.6	2	5.0	16	5.3
30万円以上35万円未満	10	9.4	9	5.8	3	7.5	22	7.3
35万円以上40万円未満	4	3.8	5	3.3	1	2.5	10	3.3
40万円以上	16	15.1	43	27.9	13	32.5	72	24.0
合計	106	100.0	154	100.0	40	100.0	300	100.0
芸術・芸能分野の技術技能を活かした仕事(実演講師等)								
10万円未満	31	40.8	38	33.3	12	46.2	81	37.5
10万円以上15万円未満	14	18.4	15	13.2	4	15.4	33	15.3
15万円以上20万円未満	8	10.5	13	11.4	2	7.7	23	10.7
20万円以上25万円未満	11	14.5	14	12.3	3	11.5	28	13.0
25万円以上30万円未満	4	5.3	5	4.4	2	7.7	11	5.1
30万円以上35万円未満	1	1.3	3	2.6	0	0.0	4	1.9
35万円以上40万円未満	0	0.0	8	7.0	1	3.9	9	4.2
40万円以上	7	9.2	18	15.8	2	7.7	27	12.5
合計	76	100.0	114	100.0	26	100.0	216	100.0
芸術・芸能分野以外の仕事								
10万円未満	22	30.6	25	34.7	7	63.6	54	34.8
10万円以上15万円未満	7	9.7	11	15.3	1	9.1	19	12.3
15万円以上20万円未満	20	27.8	10	13.9	2	18.2	32	20.7
20万円以上25万円未満	10	13.9	8	11.1	0	0.0	18	11.6
25万円以上30万円未満	4	5.6	6	8.3	0	0.0	10	6.5
30万円以上35万円未満	5	6.9	4	5.6	0	0.0	9	5.8
35万円以上40万円未満	0	0.0	4	5.6	0	0.0	4	2.6
40万円以上	4	5.6	4	5.6	1	9.1	9	5.8
合計	72	100.0	72	100.0	11	100.0	155	100.0
総月間収入(上記3種の合計値)								
10万円未満	26	16.4	29	13.7	14	24.6	69	16.2
10万円以上15万円未満	13	8.2	27	12.8	4	7.0	44	10.3
15万円以上20万円未満	31	19.5	18	8.5	6	10.5	55	12.9
20万円以上25万円未満	26	16.4	25	11.9	5	8.8	56	13.1
25万円以上30万円未満	10	6.3	13	6.2	4	7.0	27	6.3
30万円以上35万円未満	14	8.8	16	7.6	4	7.0	34	8.0
35万円以上40万円未満	8	5.0	14	6.6	3	5.3	25	5.9
40万円以上	31	19.5	69	32.7	17	29.8	117	27.4
合計	159	100.0	211	100.0	57	100.0	427	100.0
各種仕事の総月間収入に占める平均比率 (注)								
実演の仕事		43.9		51.8		59.8		49.9
芸術・芸能関係の仕事		22.5		25.9		29.3		25.1
芸術・芸能以外の仕事		33.7		22.3		10.9		25.0
合計	159	100.0	211	100.0	57	100.0	427	100.0

(注)「実演の仕事」は「芸術・芸能分野の実演の仕事(稽古等を含む)」と、「芸術・芸能関係の仕事」は「芸術・芸能分野の技術技能を活かした仕事(実演講師等)」と、「芸術・芸能以外の仕事」は「芸術・芸能分野以外の仕事」とそれぞれ対応する。

表3.2.6a 職種別月間収入

	俳優・スタントマン		声優・アナウンサー		伝統芸能		音楽・舞踊・演芸	
	n	%	n	%	n	%	n	%
芸術・芸能分野の実演の仕事(稽古等を含む)								
10万円未満	18	41.9	0	0.0	21	26.3	27	31.0
10万円以上15万円未満	6	14.0	0	0.0	7	8.8	6	6.9
15万円以上20万円未満	6	14.0	1	6.7	8	10.0	11	12.6
20万円以上25万円未満	5	11.6	0	0.0	7	8.8	11	12.6
25万円以上30万円未満	3	7.0	2	13.3	6	7.5	4	4.6
30万円以上35万円未満	1	2.3	0	0.0	7	8.8	7	8.1
35万円以上40万円未満	0	0.0	2	13.3	2	2.5	2	2.3
40万円以上	4	9.3	10	66.7	22	27.5	19	21.8
合計	43	100.0	15	100.0	80	100.0	87	100.0
芸術・芸能分野の技術技能を活かした仕事(実演講師等)								
10万円未満	8	44.4	3	33.3	19	47.5	42	39.6
10万円以上15万円未満	4	22.2	2	22.2	3	7.5	19	17.9
15万円以上20万円未満	3	16.7	1	11.1	3	7.5	9	8.5
20万円以上25万円未満	3	16.7	1	11.1	6	15.0	13	12.3
25万円以上30万円未満	0	0.0	1	11.1	1	2.5	6	5.7
30万円以上35万円未満	0	0.0	0	0.0	1	2.5	0	0.0
35万円以上40万円未満	0	0.0	1	11.1	1	2.5	5	4.7
40万円以上	0	0.0	0	0.0	6	15.0	12	11.3
合計	18	100.0	9	100.0	40	100.0	106	100.0
芸術・芸能分野以外の仕事の拘束時間								
10万円未満	12	25.0	3	42.9	4	40.0	25	55.6
10万円以上15万円未満	8	16.7	1	14.3	2	20.0	5	11.1
15万円以上20万円未満	12	25.0	1	14.3	2	20.0	6	13.3
20万円以上25万円未満	7	14.6	1	14.3	0	0.0	2	4.4
25万円以上30万円未満	3	6.3	1	14.3	0	0.0	2	4.4
30万円以上35万円未満	4	8.3	0	0.0	0	0.0	1	2.2
35万円以上40万円未満	1	2.1	0	0.0	1	10.0	1	2.2
40万円以上	1	2.1	0	0.0	1	10.0	3	6.7
合計	48	100.0	7	100.0	10	100.0	45	100.0
総月間収入(上記3種の合計値)								
10万円未満	13	17.3	1	5.0	18	21.4	20	15.9
10万円以上15万円未満	8	10.7	0	0.0	7	8.3	15	11.9
15万円以上20万円未満	15	20.0	2	10.0	7	8.3	14	11.1
20万円以上25万円未満	13	17.3	2	10.0	12	14.3	14	11.1
25万円以上30万円未満	12	16.0	1	5.0	5	6.0	6	4.8
30万円以上35万円未満	5	6.7	0	0.0	7	8.3	8	6.4
35万円以上40万円未満	2	2.7	1	5.0	3	3.6	11	8.7
40万円以上	7	9.3	13	65.0	25	29.8	38	30.2
合計	75	100.0	20	100.0	84	100.0	126	100.0
各種仕事の総月間収入に占める平均比率								
実演の仕事		37.9		63.0		74.1		36.4
芸術・芸能関係の仕事		9.4		16.1		19.3		43.7
芸術・芸能以外の仕事		52.6		20.9		6.6		19.9
合計	75	100.0	20	100.0	84	100.0	126	100.0

(注)「実演の仕事」は「芸術・芸能分野の実演の仕事(稽古等を含む)」と、「芸術・芸能関係の仕事」は「芸術・芸能分野の技術技能を活かした仕事(実演講師等)」と、「芸術・芸能以外の仕事」は「芸術・芸能分野以外の仕事」とそれぞれ対応する。

表3.2.6b 職種別月間収入

	美術家		文筆・クリエイター		その他		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
芸術・芸能分野の実演の仕事(稽古等を含む)								
10万円未満	10	28.6	8	26.7	2	33.3	86	29.1
10万円以上15万円未満	4	11.4	6	20.0	0	0.0	29	9.8
15万円以上20万円未満	5	14.3	3	10.0	1	16.7	35	11.8
20万円以上25万円未満	3	8.6	1	3.3	2	33.3	29	9.8
25万円以上30万円未満	0	0.0	1	3.3	0	0.0	16	5.4
30万円以上35万円未満	4	11.4	0	0.0	1	16.7	20	6.8
35万円以上40万円未満	1	2.9	3	10.0	0	0.0	10	3.4
40万円以上	8	22.9	8	26.7	0	0.0	71	24.0
合計	35	100.0	30	100.0	6	100.0	296	100.0
芸術・芸能分野の技術技能を活かした仕事(実演講師等)								
10万円未満	4	13.8	3	33.3	1	100.0	80	37.7
10万円以上15万円未満	4	13.8	0	0.0	0	0.0	32	15.1
15万円以上20万円未満	5	17.2	2	22.2	0	0.0	23	10.9
20万円以上25万円未満	5	17.2	0	0.0	0	0.0	28	13.2
25万円以上30万円未満	0	0.0	2	22.2	0	0.0	10	4.7
30万円以上35万円未満	3	10.3	0	0.0	0	0.0	4	1.9
35万円以上40万円未満	2	6.9	0	0.0	0	0.0	9	4.3
40万円以上	6	20.7	2	22.2	0	0.0	26	12.3
合計	29	100.0	9	100.0	1	100.0	212	100.0
芸術・芸能分野以外の仕事の拘束時間								
10万円未満	4	14.8	4	33.3	0	0.0	52	34.2
10万円以上15万円未満	2	7.4	1	8.3	0	0.0	19	12.5
15万円以上20万円未満	6	22.2	4	33.3	1	33.3	32	21.1
20万円以上25万円未満	6	22.2	1	8.3	0	0.0	17	11.2
25万円以上30万円未満	3	11.1	1	8.3	0	0.0	10	6.6
30万円以上35万円未満	2	7.4	0	0.0	2	66.7	9	5.9
35万円以上40万円未満	1	3.7	0	0.0	0	0.0	4	2.6
40万円以上	3	11.1	1	8.3	0	0.0	9	5.9
合計	27	100.0	12	100.0	3	100.0	152	100.0
総月間収入(上記3種の合計値)								
10万円未満	9	13.9	7	16.7	1	12.5	69	16.4
10万円以上15万円未満	7	10.8	5	11.9	0	0.0	42	10.0
15万円以上20万円未満	7	10.8	9	21.4	2	25.0	56	13.3
20万円以上25万円未満	9	13.9	4	9.5	2	25.0	56	13.3
25万円以上30万円未満	0	0.0	2	4.8	0	0.0	26	6.2
30万円以上35万円未満	9	13.9	0	0.0	3	37.5	32	7.6
35万円以上40万円未満	3	4.6	4	9.5	0	0.0	24	5.7
40万円以上	21	32.3	11	26.2	0	0.0	115	27.4
合計	65	100.0	42	100.0	8	100.0	420	100.0
各種仕事の総月間収入に占める平均比率								
実演の仕事		44.7		65.4		64.5		50.2
芸術・芸能関係の仕事		25.1		14.5		0.8		24.8
芸術・芸能以外の仕事		30.2		20.1		34.7		25.0
合計	65	100.0	42	100.0	8	100.0	420	100.0

(注)「実演の仕事」は「芸術・芸能分野の実演の仕事(稽古等を含む)」と、「芸術・芸能関係の仕事」は「芸術・芸能分野の技術技能を活かした仕事(実演講師等)」と、「芸術・芸能以外の仕事」は「芸術・芸能分野以外の仕事」とそれぞれ対応する。

3.3 メンタルヘルス・主観的幸福感・継続意欲

3.3.1 年齢階層別メンタルヘルスと主観的幸福感(表 3.3.1)

年齢階層別に、K6 スコア(6 設問の不安・抑うつ傾向に関する尺度)、主観的幸福感(1 点を「全く幸せでない」、10 点を「非常に幸せ」とした尺度)、ワーク・エンゲイジメント(仕事に対して活力・熱意・没頭感をもって仕事に取り組む頻度に関する尺度)について集計を行った。

K6 スコアが 10 点以上(うつ・不安障害の疑い(重度を含む))の者の割合は、30 代以下(28.9%)、40～50 代(25.3%)、60 代以上(4.0%)であった。

主観的幸福感が 5 点未満である割合は、30 代以下(13.2%)、40～50 代(10.4%)、60 代以上(5.4%)であった。

ワーク・エンゲイジメントについては、表中の「全くない」「ほとんど感じない」「めったに感じない」の合計割合を比較する。活力については、30 代以下(7.1%)、40～50 代(7.0%)、60 代以上(9.3%)であった。熱意については、30 代以下(4.4%)、40～50 代(4.4%)、60 代以上(9.0%)であった。没頭については、30 代以下(8.9%)、40～50 代(11.2%)、60 代以上(19.1%)であった。

3.3.2 職種別メンタルヘルスと主観的幸福感(表 3.3.2a, 表 3.3.2b)

職種別に、K6 スコア、主観的幸福感、ワーク・エンゲイジメントについて集計を行った。

職種別にK6 スコアが 10 点以上(うつ・不安障害の疑い(重度を含む))の者の割合は、俳優・スタントマン(35.0%)、声優・アナウンサー(21.9%)、伝統芸能(16.6%)、音楽・舞踏・演芸(14.3%)、美術家(35.0%)、文筆・クリエイター(27.0%)であった。

主観的幸福感が 5 点未満である割合は、俳優・スタントマン(15.8%)、声優・アナウンサー(9.4%)、伝統芸能(7.0%)、音楽・舞踏・演芸(5.6%)、美術家(15.5%)、文筆・クリエイター(12.7%)であった。

ワーク・エンゲイジメントについては、表中の「全くない」「ほとんど感じない」「めったに感じない」の合計割合を比較する。活力については、俳優・スタントマン(5.0%)、声優・アナウンサー(3.1%)、伝統芸能(11.6%)、音楽・舞踏・演芸(6.2%)、美術家(4.1%)、文筆・クリエイター(11.1%)であった。熱意については、俳優・スタントマン(3.0%)、声優・アナウンサー(0.0%)、伝統芸能(12.8%)、音楽・舞踏・演芸(4.0%)、美術家(2.0%)、文筆・クリエイター(0.0%)であった。没頭については、俳優・スタントマン(7.9%)、声優アナウンサー(9.4%)、伝統芸能(20.0%)、音楽・舞踏・演芸(9.7%)、美術家(7.3%)、文筆・クリエイター(11.2%)であった。

3.3.3 年齢階層別芸術・芸能分野の仕事に対する継続意欲(表 3.3.3)

年齢階層別に、芸術・芸能分野の仕事に対する継続意欲について集計を行った。

「仮に、一生の生活に困らないだけの経済的余裕が得られたら、芸術・芸能(実演)分野の仕事はどうしますか。」との設問に対し、「変わらず働く」との回答した者の割合が全ての年齢階層で最も高く、30代以下(71.6%)、40～50代(62.9%)、60代以上(62.1%)であった。

「仮に、芸術・芸能(実演)分野の仕事だけで必要最低限の収入を得られる見込みが将来にわたってまったくないことが分かったら、どうしますか。」との設問に対しては、「わからない」を除くと、「変わらず芸能業界で働く」と回答した者の割合が全ての年齢階層で最も高く、30代以下(30.2%)、40～50代(36.3%)、60代以上(39.6%)であった。

3.3.4 職種別芸術・芸能分野の仕事に対する継続意欲(表 3.3.4)

職種別に、芸術・芸能分野の仕事に対する継続意欲について集計を行った。

「仮に、一生の生活に困らないだけの経済的余裕が得られたら、芸術・芸能(実演)分野の仕事はどうしますか。」との設問に対し、全ての職種で「変わらず働く」と回答した者の割合が最も高く、俳優・スタントマン(77.8%)、声優アナウンサー(64.5%)、

伝統芸能(61.3%)、音楽・舞踏・演芸(63.4%)、美術家(77.1%)、文筆・クリエイター(54.1%)であった。

「仮に、芸術・芸能(実演)分野の仕事だけで必要最低限の収入を得られる見込みが将来にわたってまったくないことが分かったら、どうしますか。」との設問に対しては、「わからない」を除くと、「変わらず芸能業界で働く」と回答した者の割合が俳優・スタントマン(36.7%)、伝統芸能(39.9%)、音楽・舞踏・演芸(30.6%)、美術家(48.4%)では最も高く、声優・アナウンサーでは「転職する」(29.0%)、文筆・クリエイターでは「芸能業界の仕事を減らす」(26.2%)がと回答した者の割合が最も高かった。

表3.3.1 年齢階層別メンタルヘルスと主観的幸福感

	30代以下		40~50代		60代以上		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
K6 (不安・抑うつ傾向)								
0~4点 (うつ・不安障害の傾向なし)	89	40.3	134	45.7	71	70.3	294	47.8
5~9点 (うつ・不安障害の傾向あり)	68	30.8	85	29.0	26	25.7	179	29.1
10~12点 (うつ・不安障害の疑い)	29	13.1	38	13.0	3	3.0	70	11.4
13点以上 (重度のうつ・不安障害の疑い)	35	15.8	36	12.3	1	1.0	72	11.7
合計	221	100.0	293	100.0	101	100.0	615	100.0
主観的幸福感								
1~2点	11	4.8	8	2.7	2	1.8	21	3.3
3~4点	19	8.3	23	7.7	4	3.6	46	7.2
5~6点	46	20.2	72	24.2	20	18.0	138	21.7
7~8点	102	44.7	120	40.3	55	49.6	277	43.5
9~10点	50	21.9	75	25.2	30	27.0	155	24.3
合計	228	100.0	298	100.0	111	100.0	637	100.0
ワーク・エンゲイジメント(活力について)								
全くない	4	1.8	3	1.0	3	2.8	10	1.6
ほとんど感じない	2	0.9	1	0.3	3	2.8	6	1.0
めったに感じない	10	4.4	17	5.7	4	3.7	31	4.9
時々感じる	74	32.7	90	30.4	31	28.4	195	30.9
よく感じる	64	28.3	77	26.0	30	27.5	171	27.1
とてもよく感じる	45	19.9	58	19.6	14	12.8	117	18.5
いつも感じる	27	12.0	50	16.9	24	22.0	101	16.0
合計	226	100.0	296	100.0	109	100.0	631	100.0
ワーク・エンゲイジメント(熱意について)								
全くない	2	0.9	2	0.7	4	3.6	8	1.3
ほとんど感じない	0	0.0	1	0.3	2	1.8	3	0.5
めったに感じない	8	3.5	10	3.4	4	3.6	22	3.5
時々感じる	54	23.9	78	26.4	20	18.2	152	24.1
よく感じる	74	32.7	86	29.1	32	29.1	192	30.4
とてもよく感じる	49	21.7	52	17.6	15	13.6	116	18.4
いつも感じる	39	17.3	67	22.6	33	30.0	139	22.0
合計	226	100.0	296	100.0	110	100.0	632	100.0
ワーク・エンゲイジメント(没頭について)								
全くない	2	0.9	2	0.7	5	4.6	9	1.4
ほとんど感じない	4	1.8	13	4.4	4	3.6	21	3.3
めったに感じない	14	6.2	18	6.1	12	10.9	44	7.0
時々感じる	74	32.7	106	35.8	32	29.1	212	33.5
よく感じる	51	22.6	65	22.0	23	20.9	139	22.0
とてもよく感じる	50	22.1	45	15.2	12	10.9	107	16.9
いつも感じる	31	13.7	47	15.9	22	20.0	100	15.8
合計	226	100.0	296	100.0	110	100.0	632	100.0

表3.3.2a 職種別メンタルヘルスと主観的幸福感

	俳優・スタントマン		声優・アナウンサー		伝統芸能		音楽・舞踊・演芸	
	n	%	n	%	n	%	n	%
K6 (不安・抑うつ傾向)								
0~4点 (うつ・不安障害の傾向なし)	34	34.0	17	53.1	85	61.2	93	52.8
5~9点 (うつ・不安障害の傾向あり)	31	31.0	8	25.0	31	22.3	58	33.0
10~12点 (うつ・不安障害の疑い)	18	18.0	1	3.1	10	7.2	11	6.3
13点以上 (重度のうつ・不安障害の疑い)	17	17.0	6	18.8	13	9.4	14	8.0
合計	100	100.0	32	100.0	139	100.0	176	100.0
主観的幸福感								
1~2点	6	5.9	1	3.1	3	2.1	2	1.1
3~4点	10	9.9	2	6.3	7	4.9	8	4.5
5~6点	28	27.7	4	12.5	30	21.0	35	19.7
7~8点	40	39.6	13	40.6	68	47.6	77	43.3
9~10点	17	16.8	12	37.5	35	24.5	56	31.5
合計	101	100.0	32	100.0	143	100.0	178	100.0
ワーク・エンゲイジメント(活力について)								
全くない	2	2.0	0	0.0	5	3.6	2	1.1
ほとんど感じない	1	1.0	0	0.0	3	2.2	1	0.6
めったに感じない	2	2.0	1	3.1	8	5.8	8	4.5
時々感じる	23	22.8	7	21.9	46	33.1	49	27.7
よく感じる	30	29.7	7	21.9	36	25.9	48	27.1
とてもよく感じる	25	24.8	10	31.3	20	14.4	32	18.1
いつも感じる	18	17.8	7	21.9	21	15.1	37	20.9
合計	101	100.0	32	100.0	139	100.0	177	100.0
ワーク・エンゲイジメント(熱意について)								
全くない	0	0.0	0	0.0	6	4.3	1	0.6
ほとんど感じない	0	0.0	0	0.0	2	1.4	0	0.0
めったに感じない	3	3.0	0	0.0	10	7.1	6	3.4
時々感じる	19	18.8	3	9.4	40	28.6	36	20.3
よく感じる	34	33.7	11	34.4	40	28.6	53	29.9
とてもよく感じる	22	21.8	6	18.8	17	12.1	36	20.3
いつも感じる	23	22.8	12	37.5	25	17.9	45	25.4
合計	101	100.0	32	100.0	140	100.0	177	100.0
ワーク・エンゲイジメント(没頭について)								
全くない	0	0.0	0	0.0	7	5.0	1	0.6
ほとんど感じない	1	1.0	0	0.0	6	4.3	7	4.0
めったに感じない	7	6.9	3	9.4	15	10.7	9	5.1
時々感じる	30	29.7	9	28.1	47	33.6	59	33.3
よく感じる	27	26.7	7	21.9	25	17.9	37	20.9
とてもよく感じる	21	20.8	5	15.6	22	15.7	33	18.6
いつも感じる	15	14.9	8	25.0	18	12.9	31	17.5
合計	101	100.0	32	100.0	140	100.0	177	100.0

表3.3.2b 職種別メンタルヘルスと主観的幸福感

	俳優・スタントマン		声優・アナウンサー		伝統芸能		音楽・舞踊・演芸	
	n	%	n	%	n	%	n	%
K6 (不安・抑うつ傾向)								
0~4点 (うつ・不安障害の傾向なし)	34	34.0	17	53.1	85	61.2	93	52.8
5~9点 (うつ・不安障害の傾向あり)	31	31.0	8	25.0	31	22.3	58	33.0
10~12点 (うつ・不安障害の疑い)	18	18.0	1	3.1	10	7.2	11	6.3
13点以上 (重度のうつ・不安障害の疑い)	17	17.0	6	18.8	13	9.4	14	8.0
合計	100	100.0	32	100.0	139	100.0	176	100.0
主観的幸福感								
1~2点	6	5.9	1	3.1	3	2.1	2	1.1
3~4点	10	9.9	2	6.3	7	4.9	8	4.5
5~6点	28	27.7	4	12.5	30	21.0	35	19.7
7~8点	40	39.6	13	40.6	68	47.6	77	43.3
9~10点	17	16.8	12	37.5	35	24.5	56	31.5
合計	101	100.0	32	100.0	143	100.0	178	100.0
ワーク・エンゲイジメント(活力について)								
全くない	2	2.0	0	0.0	5	3.6	2	1.1
ほとんど感じない	1	1.0	0	0.0	3	2.2	1	0.6
めったに感じない	2	2.0	1	3.1	8	5.8	8	4.5
時々感じる	23	22.8	7	21.9	46	33.1	49	27.7
よく感じる	30	29.7	7	21.9	36	25.9	48	27.1
とてもよく感じる	25	24.8	10	31.3	20	14.4	32	18.1
いつも感じる	18	17.8	7	21.9	21	15.1	37	20.9
合計	101	100.0	32	100.0	139	100.0	177	100.0
ワーク・エンゲイジメント(熱意について)								
全くない	0	0.0	0	0.0	6	4.3	1	0.6
ほとんど感じない	0	0.0	0	0.0	2	1.4	0	0.0
めったに感じない	3	3.0	0	0.0	10	7.1	6	3.4
時々感じる	19	18.8	3	9.4	40	28.6	36	20.3
よく感じる	34	33.7	11	34.4	40	28.6	53	29.9
とてもよく感じる	22	21.8	6	18.8	17	12.1	36	20.3
いつも感じる	23	22.8	12	37.5	25	17.9	45	25.4
合計	101	100.0	32	100.0	140	100.0	177	100.0
ワーク・エンゲイジメント(没頭について)								
全くない	0	0.0	0	0.0	7	5.0	1	0.6
ほとんど感じない	1	1.0	0	0.0	6	4.3	7	4.0
めったに感じない	7	6.9	3	9.4	15	10.7	9	5.1
時々感じる	30	29.7	9	28.1	47	33.6	59	33.3
よく感じる	27	26.7	7	21.9	25	17.9	37	20.9
とてもよく感じる	21	20.8	5	15.6	22	15.7	33	18.6
いつも感じる	15	14.9	8	25.0	18	12.9	31	17.5
合計	101	100.0	32	100.0	140	100.0	177	100.0

表3.3.3 年齢階層別芸術・芸能分野の仕事に対する継続意欲

	30代以下		40~50代		60代以上		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
仮に、一生の生活に困らないだけの経済的余裕が得られたら、芸術・芸能の仕事はどうするか								
変わらず働く	161	71.6	185	62.9	64	62.1	410	65.9
働く時間を減らす	48	21.3	82	27.9	22	21.4	152	24.4
働くのをやめる	6	2.7	9	3.1	3	2.9	18	2.9
わからない	10	4.4	18	6.1	14	13.6	42	6.8
合計	225	100.0	294	100.0	103	100.0	622	100.0
仮に、芸術・芸能の仕事だけで必要最低限の収入を得られる見込みが将来にわたってまったくないことが分かったら								
変わらず芸術・芸能業界で働く	68	30.2	106	36.3	40	39.6	214	34.6
芸術・芸能業界の仕事を減らす	44	19.6	84	28.8	21	20.8	149	24.1
転職する	38	16.9	37	12.7	7	6.9	82	13.3
わからない	75	33.3	65	22.3	33	32.7	173	28.0
合計	225	100.0	292	100.0	101	100.0	618	100.0

表3.3.4 職種別芸術・芸能分野の仕事に対する継続意欲

	俳優・スタントマン		声優・アナウンサー		伝統芸能		音楽・舞踊・演芸	
	n	%	n	%	n	%	n	%
仮に、一生の生活に困らないだけの経済的余裕が得られたら、芸術・芸能の仕事はどうするか								
変わらず働く	77	77.8	20	64.5	84	61.3	111	63.4
働く時間を減らす	18	18.2	8	25.8	30	21.9	45	25.7
働くのをやめる	1	1.0	1	3.2	5	3.7	8	4.6
わからない	3	3.0	2	6.5	18	13.1	11	6.3
合計	99	100.0	31	100.0	137	100.0	175	100.0
仮に、芸術・芸能の仕事だけで必要最低限の収入を得られる見込みが将来にわたってまったくないことが分かったら								
変わらず芸術・芸能業界で働く	36	36.7	8	25.8	53	39.3	53	30.3
芸術・芸能業界の仕事を減らす	21	21.4	7	22.6	30	22.2	48	27.4
転職する	13	13.3	9	29.0	9	6.7	24	13.7
わからない	28	28.6	7	22.6	43	31.9	50	28.6
合計	98	100.0	31	100.0	135	100.0	175	100.0

	美術家		文筆・クリエイター		その他		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
仮に、一生の生活に困らないだけの経済的余裕が得られたら、芸術・芸能の仕事はどうするか								
変わらず働く	74	77.1	33	54.1	4	44.4	403	66.3
働く時間を減らす	17	17.7	25	41.0	5	55.6	148	24.3
働くのをやめる	1	1.0	0	0.0	0	0.0	16	2.6
わからない	4	4.2	3	4.9	0	0.0	41	6.7
合計	96	100.0	61	100.0	9	100.0	608	100.0
仮に、芸術・芸能の仕事だけで必要最低限の収入を得られる見込みが将来にわたってまったくないことが分かったら								
変わらず芸術・芸能業界で働く	46	48.4	10	16.4	3	33.3	209	34.6
芸術・芸能業界の仕事を減らす	22	23.2	16	26.2	1	11.1	145	24.0
転職する	6	6.3	15	24.6	2	22.2	78	12.9
わからない	21	22.1	20	32.8	3	33.3	172	28.5
合計	95	100.0	61	100.0	9	100.0	604	100.0

3.4 心理的負荷のある出来事の経験

本節では、仕事の場において心理的負荷となり得る出来事を 30 項目列挙し、経験の有無を尋ねた結果を概説する。この質問は、過去 1 年間の経験等と限定していない為、在職全てでの経験を答える者と直近で起きた出来事のみを答える者の回答が混在している点に注意が必要である。

3.4.1 年齢階層別心理的負荷のある出来事の経験(表 3.4.1)

年齢階層別に、30 項目の心理的負荷のある出来事の経験割合について集計を行った。

年齢階層別で 25%を超えた項目数は、30 代以下では 9 項目、40～50 代では 10 項目、60 代以上では 1 項目のみと、年齢階層の最も高い者は心理的負荷のある出来事に直面していない傾向にあった。

年齢階層別で 25%を超えた項目は、60 代以上では「次の仕事があるか不安である」(33.9%)のみであった。

30 代以下の 9 項目は、「実演、創作等のため、不自然な姿勢を長時間取らなければならない」(29.8%)、「自分の仕事場の安全衛生管理者(仕事上の事故防止や働く人の健康管理をする人)が誰か分からない」(37.7%)、「仕事の関係者に、心が傷つくことを言われた」(41.7%)、「同僚や仲間が音信不通になったり、突然現場に来なくなることがあった」(28.5%)、「業界の慣習で言いたいことを自由に言えない」(34.2%)、「次の仕事があるか不安である」(61.8%)、「自分に才能があるか自信がない」(36.8%)、「視聴率が取れるか、チケットノルマ、観客動員数が達成できるかなどの成果が心配である」(37.7%)、「付き合いたくない人と付き合いなければならない」(34.6%)であった。

40～50 代の 10 項目は、「実演、創作等のため、不自然な姿勢を長時間取らなければならない」(29.8%)、「自分の仕事場の安全衛生管理者(仕事上の事故防止や働く人の健康管理をする人)が誰か分からない」(34.1%)、「仕事の関係者に、心が傷つくことを言われた」(48.5%)、「同僚や仲間が音信不通になったり、突然現場に

来なくなることがあった」(27.1%)、「業界の慣習で言いたいことを自由に言えない」(38.1%)、「次の仕事があるか不安である」(62.2%)、「自分に才能があるか自信がない」(29.1%)、「視聴率が取れるか、チケットノルマ、観客動員数が達成できるかなどの成果が心配である」(35.5%)、「仕事や活動の関係者とトラブルになった」(29.1%)、「付き合いたくない人と付き合わなければならない」(37.5%)であった。

3.4.2 職種別心理的負荷のある出来事の経験(表 3.4.2a, 表 3.4.2b)

職種別に、30 項目の心理的負荷のある出来事の経験割合について集計を行った。

25%を超えていた項目数の多さでは、俳優・スタントマン(12 個)、美術家(9 個)、声優・アナウンサー(8 個)、音楽・舞踏・演芸(8 個)、文筆・クリエイター(6 個)、伝統芸能(4 個)の順であった。

全職種で 25%を超えていた項目は、「業界の慣習で言いたいことを自由に言えない」、「次の仕事があるか不安である」であった。

3.4.3 年齢階層・性別セクハラ関連出来事の経験(表 3.4.3)

年齢階層・性別に、30 項目の心理的負荷のある出来事のうちセクハラ事案と考えられる、「恥ずかしいと感じるほどの体の露出をさせられた」、「仕事の関係者に必要以上に身体を触られた」、「羞恥心を感じる性的な実演をしなければならない」、「性的関係を迫られた」という出来事の経験割合と、どれか一つでも経験した割合について集計を行った。

男性全体で最も経験割合の高かった項目は、「恥ずかしいと感じるほどの体の露出をさせられた」(2.1%)であった。一つでも経験をした割合については、30 代以下(4.0%)、40~50 代(5.8%)、60 代以上(0.0%)であった。

女性全体で最も経験割合の高かった項目は、「仕事の関係者に必要以上に身体を触られた」(12.8%)であった。「性的関係を迫られた」の経験割合は男性(0.9%)に対して女性(12.1%)であった。女性において一つでも経験をした割合は、30 代以下(18.6%)、40~50 代(25.4%)、60 代以上(7.3%)であった。

男女ともに60代以上ではセクハラ関連の出来事の経験割合が顕著に低く、女性の経験割合が顕著に高かった。

3.4.4 職種別セクハラ関連出来事の経験(表 3.4.4)

職種別に、セクハラ事案と考えられる出来事の経験割合と、どれか一つでも経験した割合について集計を行った。

職種別に 5%を超えた出来事に着目する。俳優・スタントマンでは全ての項目で5%を超えていた。声優・アナウンサーでは「羞恥心を感じる性的な実演をしなければならない」(3.1%)を除いた項目が5%を超えていた。美術家では「仕事の関係者に必要以上に身体を触られた」(8.2%)、「性的関係を迫られた」(9.3%)、文筆・クリエイターでは「仕事の関係者に必要以上に身体を触られた」(11.1%)、「性的関係を迫られた」(9.5%)が5%を超えていた。

職種別に一つでも経験をした割合は、声優・アナウンサー(28.1%)、俳優・スタントマン(18.8%)、文筆・クリエイター(17.5%)、美術家(12.4%)、音楽・舞踊・演芸(7.3%)、伝統芸能(5.5%)の順であった。

表3.4.1 年齢階層別心理的負荷のある出来事の実験

	30代以下	40~50代	60代以上	全体
怪我や急病時には必要な対応をしてもらえなかった	11.0	13.4	5.4	11.1
危険を感じる場面や場所での実演や設営をしなければならない	19.7	17.1	5.4	16.0
実演、創作等のため、不自然な姿勢を長時間取らなければならない	29.8	29.8	11.6	26.6
自分の職場の安全衛生管理者（仕事上の事故防止や働く人の健康管理をする人）が誰か分からない	37.7	34.1	16.1	32.2
着替えをする場所が提供されないために嫌な思いをした	11.8	19.4	10.7	15.2
仕事中にトイレが見つからない	7.9	8.7	1.8	7.2
尿意を催しても我慢しなければならない	17.1	20.1	8.9	17.1
仕事の関係者から殴られた、蹴られた、叩かれた、または怒鳴られた	16.7	21.4	1.8	16.3
仕事の関係者に、心が傷つくことを言われた	41.7	48.5	20.5	41.2
恥ずかしいと感じるほどの体の露出をさせられた	3.5	5.0	0.0	3.6
仕事の関係者に必要以上に身体を触られた	7.5	7.7	2.7	6.7
羞恥心を感じる性的な実演をしなければならない	2.2	3.7	0.0	2.5
性的関係を迫られた	5.7	9.4	0.0	6.4
同僚や仲間が急にやせ細った	15.8	13.0	0.9	11.9
同僚や仲間が音信不通になったり、突然現場に来なくなることがあった	28.5	27.1	6.3	23.9
同僚や仲間が自殺した	3.5	10.0	5.4	6.9
事前に聞かされていない、許容しがたい実演や創作等を求められることがある	11.8	12.4	6.3	11.1
仕事の発注元・支払元または大元請けが分からない	15.4	13.7	4.5	12.7
自分の仕事を指揮しているのが誰かが分からない	9.2	9.4	1.8	8.0
業界の慣習で言いたいことを自由に言えない	34.2	38.1	15.2	32.7
次の仕事があるか不安である	61.8	62.2	33.9	57.1
自分に才能があるか自信がない	36.8	29.1	17.0	29.7
視聴率が取れるか、チケットノルマ、観客動員数が達成できるかなどの成果が心配である	37.7	35.5	20.5	33.6
仕事や活動の関係者とトラブルになった	21.1	29.1	9.8	22.8
自分の仕事が他人の成果として評価されたことがある	20.2	20.1	8.9	18.2
仕事上の友人と自由に交流できない	5.3	6.7	3.6	5.6
仕事上の友人と腹を割って話せない	15.8	16.1	5.4	14.1
付き合いたくない人と付き合いなければならない	34.6	37.5	12.5	32.1
頼れる人が身近にいない	12.7	16.1	8.0	13.5
発注者から支給される食事（ロケ弁等）が脂っこい	8.3	12.0	7.1	9.9
n	228	299	112	639

表3.4.2a 職種別心理的負荷のある出来事の実験

	俳優・スタ ントマン	声優・アナ ウンサー	伝統芸能	音楽・舞 踊・演芸
怪我や急病時には必要な対応をしてもらえなかった	19.8	9.4	2.1	12.4
危険を感じる場面や場所での実演や設営をしなければならない	33.7	3.1	2.1	14.6
実演、創作等のため、不自然な姿勢を長時間取らなければならない	45.5	9.4	14.5	32.6
自分の職場の安全衛生管理者（仕事上の事故防止や働く人の健康管理をする人）が誰か分からない	45.5	40.6	23.4	26.4
着替えをする場所が提供されないために嫌な思いをした	21.8	15.6	14.5	23.0
仕事中にトイレが見つからない	19.8	15.6	2.8	4.5
尿意を催しても我慢しなければならない	30.7	25.0	15.2	17.4
仕事の関係者から殴られた、蹴られた、叩かれた、または怒鳴られた	27.7	25.0	11.7	12.9
仕事の関係者に、心が傷つくことを言われた	55.4	71.9	24.8	38.2
恥ずかしいと感じるほどの体の露出をさせられた	8.9	12.5	0.7	2.8
仕事の関係者に必要以上に身体を触られた	9.9	15.6	3.4	3.4
羞恥心を感じる性的な実演をしなければならない	8.9	3.1	0.0	1.7
性的関係を迫られた	9.9	15.6	2.1	3.4
同僚や仲間が急にやせ細った	16.8	9.4	10.3	11.8
同僚や仲間が音信不通になったり、突然現場に来なくなるがあった	39.6	18.8	18.6	18.5
同僚や仲間が自殺した	9.9	18.8	2.8	3.4
事前に聞かされていない、許容しがたい実演や創作等を求められることがある	21.8	12.5	4.1	12.9
仕事の発注元・支払元または大元請けが分からない	19.8	18.8	6.9	10.7
自分の仕事を指揮しているのが誰かが分からない	14.9	21.9	1.4	6.7
業界の慣習で言いたいことを自由に言えない	41.6	56.3	27.6	29.2
次の仕事があるか不安である	78.2	78.1	38.6	50.6
自分に才能があるか自信がない	45.5	37.5	24.8	27.5
視聴率が取れるか、チケットノルマ、観客動員数が達成できるかなどの成果が心配である	46.5	21.9	31.7	43.8
仕事や活動の関係者とトラブルになった	20.8	12.5	11.7	19.7
自分の仕事が他人の成果として評価されたことがある	19.8	18.8	6.2	20.2
仕事上の友人と自由に交流できない	5.9	9.4	2.8	4.5
仕事上の友人と腹を割って話せない	20.8	15.6	6.2	12.9
付き合いたくない人と付き合いなければならない	36.6	53.1	29.0	31.5
頼れる人が身近にいない	22.8	15.6	7.6	6.2
発注者から支給される食事（ロケ弁等）が脂っこい	18.8	15.6	6.9	9.6
n	101	32	145	178

表3.4.2b 職種別心理的負荷のある出来事の実験

	美術家	文筆・クリ エーター	その他	全体
怪我や急病時には必要な対応をしてもらえなかった	11.3	9.5	11.1	10.6
危険を感じる場面や場所での実演や設営をしなければならない	27.8	11.1	22.2	16.0
実演、創作等のため、不自然な姿勢を長時間取らなければならない	27.8	15.9	33.3	26.9
自分の職場の安全衛生管理者（仕事上の事故防止や働く人の健康管理をする人）が誰か分からない	40.2	23.8	66.7	32.0
着替えをする場所が提供されないために嫌な思いをした	2.1	1.6	22.2	15.0
仕事中にトイレが見つからない	3.1	4.8	22.2	7.2
尿意を催しても我慢しなければならない	6.2	12.7	11.1	17.1
仕事の関係者から殴られた、蹴られた、叩かれた、または怒鳴られた	13.4	14.3	22.2	16.0
仕事の関係者に、心が傷つくことを言われた	37.1	50.8	66.7	41.1
恥ずかしいと感じるほどの体の露出をさせられた	1.0	1.6	11.1	3.5
仕事の関係者に必要以上に身体を触られた	8.2	11.1	11.1	6.7
羞恥心を感じる性的な実演をしなければならない	1.0	1.6	11.1	2.6
性的関係を迫られた	9.3	9.5	11.1	6.4
同僚や仲間が急にやせ細った	12.4	7.9	11.1	11.8
同僚や仲間が音信不通になったり、突然現場に来なくなることがあった	20.6	28.6	66.7	24.0
同僚や仲間が自殺した	10.3	6.3	0.0	6.4
事前に聞かされていない、許容しがたい実演や創作等を求められることがある	5.2	11.1	22.2	11.0
仕事の発注元・支払元または大元請けが分からない	15.5	9.5	11.1	12.3
自分の仕事を指揮しているのが誰かが分からない	8.2	7.9	11.1	8.0
業界の慣習で言いたいことを自由に言えない	29.9	27.0	55.6	32.5
次の仕事があるか不安である	68.0	61.9	33.3	57.3
自分に才能があるか自信がない	27.8	23.8	33.3	30.1
視聴率が取れるか、チケットノルマ、観客動員数が達成できるかなどの成果が心配である	20.6	17.5	0.0	33.4
仕事や活動の関係者とトラブルになった	34.0	41.3	55.6	22.6
自分の仕事や他人の成果として評価されたことがある	24.7	23.8	44.4	18.2
仕事上の友人と自由に交流できない	7.2	7.9	11.1	5.4
仕事上の友人と腹を割って話せない	17.5	17.5	33.3	14.2
付き合いたくない人と付き合いなければならない	30.9	28.6	22.2	32.3
頼れる人が身近にいない	17.5	23.8	33.3	13.6
発注者から支給される食事（ロケ弁等）が脂っこい	3.1	11.1	11.1	9.9
n	97	63	9	625

表3.1.4.3 年齢階層・性別セクハラ関連出来事の経験割合

	30代以下男性	40代・50代 男性	60代以上男性	男性全体
恥ずかしいと感じるほどの体の露出をさせられた	2.0	3.2	0.0	2.1
仕事の関係者に必要以上に身体を触られた	3.0	1.3	0.0	1.5
羞恥心を感じる性的な実演をしなければならない	1.0	1.9	0.0	1.2
性的関係を迫られた	1.0	1.3	0.0	0.9
上記セクハラ関連経験を一つでも経験した割合	4.0	5.8	0.0	4.0
n	101	155	71	327

	30代以下女性	40代・50代 女性	60代以上女性	女性全体
恥ずかしいと感じるほどの体の露出をさせられた	4.2	7.2	0.0	5.1
仕事の関係者に必要以上に身体を触られた	11.9	15.2	7.3	12.8
羞恥心を感じる性的な実演をしなければならない	3.4	5.8	0.0	4.0
性的関係を迫られた	9.3	18.1	0.0	12.1
上記セクハラ関連経験を一つでも経験した割合	18.6	25.4	7.3	20.2
n	118	138	41	297

表3.1.4.4 職種別セクハラ関連出来事の経験割合

	俳優・スタン トマン	声優・アナウ ンサー	伝統芸能	音楽・舞踊・ 演芸
恥ずかしいと感じるほどの体の露出をさせられた	8.9	12.5	0.7	2.8
仕事の関係者に必要以上に身体を触られた	9.9	15.6	3.4	3.4
羞恥心を感じる性的な実演をしなければならない	8.9	3.1	0.0	1.7
性的関係を迫られた	9.9	15.6	2.1	3.4
上記セクハラ関連経験を一つでも経験した割合	18.8	28.1	5.5	7.3
n	101	32	145	178

	美術家	文筆・クリエ イター	その他	全体
恥ずかしいと感じるほどの体の露出をさせられた	1.0	1.6	11.1	3.5
仕事の関係者に必要以上に身体を触られた	8.2	11.1	11.1	6.7
羞恥心を感じる性的な実演をしなければならない	1.0	1.6	11.1	2.6
性的関係を迫られた	9.3	9.5	11.1	6.4
上記セクハラ関連経験を一つでも経験した割合	12.4	17.5	11.1	11.7
n	97	63	9	625

3.5 仕事についての裁量度・実演方法の最終決定権・報酬の決定方法

3.5.1 仕事についての裁量度(表 3.5.1)

仕事の裁量に関する設問項目の該当度合いについて集計を行った。

ここでは割合が高く「100%」に近い程、裁量のある働き方となり、「0%」に近づくにつれて裁量がほとんどない働き方であると考えている。実演家全体で最も割合が大きかったのは「50%」(35.9%)であった。

3.5.2 実演方法の最終決定権と報酬の決定方法(表 3.5.2)

実演方法の最終決定権や報酬の決定方法について集計を行った。

実演方法の最終決定権を持っているかを、「通常指示される大枠の部分以外で、最終的な演技や創作の表現の過程・方法は自分で決めることができるか」と尋ねたところ、該当すると答えた割合は54.8%であった。

報酬の決定方法については、「報酬額について、仕事の発注者と直接又は所属事務所を通じて交渉することができる」(36.7%)、「報酬は、打ち合わせや稽古等に要した時間によらず、作品の完成や舞台の完遂によって定められている」(45.9%)であった。

仕事の際に自身の道具の持ち込みについては、「仕事に必要な衣装、材料、道具(メイク用品、楽器、パソコンなどを含む)は、自前で用意している」が70.2%であった。

表3.5.1 仕事に対する裁量度

仕事についての 裁量度	n	%
0%	3	0.5
12.5%	15	2.3
25.0%	56	8.8
37.5%	87	13.6
50.0%	230	35.9
62.5%	114	17.8
75.0%	88	13.8
87.5%	42	6.6
100%	5	0.8
合計	640	100.0

(注) 仕事についての裁量度:以下の調査票設問で該当する場合は1を足し、一部項目は該当しない場合に1を足し、合計を設問数(8)で割ったもの

該当なら1を足す項目

- Q5-(1) 仕事を受けるか否かを自分で決めることができる
- Q5-(4) 楽屋・アトリエ・制作現場等に入る時間、出る時間、休憩時間は自分で決めることができる
- Q5-(5) 受けた仕事をするにあたり、自分の判断で、自分の代わりに者に仕事をさせることができる
- Q5-(6) 受けた仕事をするにあたり、必要に応じて、補助者（専属スタッフ、アシスタントマン等）をつけたり、従事する人数を増やしたりすることを自分で決めることができる
- Q6-(1) 自ら事務所を構えていて、自分が出演などをする仕事は事務所として受注している
- Q6-(2) 実演の仕事の収入は、事業所得または雑所得として自分で確定申告している

該当しない場合に1を足す項目

- Q5-(2) 仕事を拒否すると今後他の仕事のオファーが来なくなるおそれがあるので、仕事を受けるか否かを自分で決めることができない
- Q5-(10) 仕事の発注者（所属事務所、画廊など）からは、他社や他の芸能事務所等の仕事を受けないよう言われている

表3.5.2 実演方法の決定と報酬の決定方法

		該当者数 (n=640)	該当率(%)
Q5-(3)	通常指示される大枠の部分以外で、最終的な演技や創作の表現の過程・方法は自分で決めることができる	351	54.8
Q5-(7)	報酬額について、仕事の発注者と直接又は所属事務所を通じて交渉することができる	235	36.7
Q5-(8)	報酬は、打ち合わせや稽古等に要した時間によらず、作品の完成や舞台の完遂によって定められている	294	45.9
Q5-(9)	仕事に必要な衣装、材料、道具（メイク用品、楽器、パソコンなどを含む）は、自前で用意している	449	70.2

3.6 ケイパビリティ(表 3.6)

本章では、ケイパビリティ(厚生のお機曾と自由の豊かさ)について、ICECAP-A 尺度(成人用ケイパビリティ)によって評価した結果を概説する。項目の「安心・安定」、 「愛情・友情・支援」、 「自立」、 「達成感・成長」、 「楽しみ・喜び」の 5 項目を、機会や自由が豊かな順に 4~1 点と得点化した。最高得点(豊かさ高)の 4 点の割合は、「安心・安定」(11.0%)、「愛情・友情・支援」(24.0%)、「自立」(20.7%)、「楽しみ・喜び」(17.9%)であった。

表3.6 ケイパビリティ(厚生のお機曾と自由の豊かさ)

	安心・安定		愛情・友情・支援		自立		達成感・成長		楽しみ・喜び	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
4点	70	11.0	153	24.0	132	20.7	46	7.2	114	17.9
3点	301	47.2	303	47.6	237	37.2	260	40.9	286	44.8
2点	229	35.9	160	25.1	228	35.8	299	47.1	219	34.3
1点	38	6.0	21	3.3	40	6.3	30	4.7	19	3.0
合計	638	100.0	637	100.0	637	100.0	635	100.0	638	100.0

3.7 睡眠時間

3.7.1 年齢階層別睡眠時間(表 3.7.1)

年齢階層別に最も割合の高い睡眠時間は、30代以下では5～6時間未満(33.3%)、40～50代では6～7時間未満(35.9%)、60代以上では6～7時間未満(33.3%)であった。なお、5時間未満は、30代以下(12.3%)、40～50代(7.8%)、60代以上(4.5%)と年齢階層が低い程、割合が高かった。

3.7.2 職種別睡眠時間(表 3.7.2)

職種内で最も割合の高い睡眠時間について、5～6時間未満が最大であったのは俳優・スタントマン(39.6%)、声優・アナウンサー(37.5%)、美術家(32.6%)、6～7時間未満が最大であったのは伝統芸能(33.1%)、音楽・舞踏・演芸(35.4%)、美術家(32.6%)、文筆・クリエイター(38.1%)であった。5時間未満の割合は、俳優・スタントマン(15.8%)以外の職種で10%未満であった。

表3.7.1 年齢階層別睡眠時間

	30代以下		40~50代		60代以上		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
5時間未満	28	12.3	23	7.8	5	4.5	56	8.8
5~6時間未満	76	33.3	93	31.5	36	32.4	205	32.3
6~7時間未満	72	31.6	106	35.9	37	33.3	215	33.9
7~8時間未満	44	19.3	55	18.6	30	27.0	129	20.4
8~9時間未満	6	2.6	14	4.8	3	2.7	23	3.6
9時間以上	2	0.9	4	1.4	0	0.0	6	1.0
合計	228	100.0	295	100.0	111	100.0	634	100.0

表3.7.2 職種別睡眠時間

	俳優・スタントマン		声優・アナウンサー		伝統芸能		音楽・舞踊・演芸	
	n	%	n	%	n	%	n	%
5時間未満	16	15.8	3	9.4	7	4.9	17	9.6
5~6時間未満	40	39.6	12	37.5	45	31.7	51	28.7
6~7時間未満	32	31.7	10	31.3	47	33.1	63	35.4
7~8時間未満	11	10.9	5	15.6	35	24.7	41	23.0
8~9時間未満	2	2.0	2	6.3	6	4.2	6	3.4
9時間以上	0	0.0	0	0.0	2	1.4	0	0.0
合計	101	100.0	32	100.0	142	100.0	178	100.0

	美術家		文筆・クリエイター		その他		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
5時間未満	6	6.3	4	6.4	0	0.0	53	8.6
5~6時間未満	31	32.6	17	27.0	3	33.3	199	32.1
6~7時間未満	31	32.6	24	38.1	5	55.6	212	34.2
7~8時間未満	20	21.1	16	25.4	0	0.0	128	20.7
8~9時間未満	5	5.3	1	1.6	0	0.0	22	3.6
9時間以上	2	2.1	1	1.6	1	11.1	6	1.0
合計	95	100.0	63	100.0	9	100.0	620	100.0

4 各種状況別メンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間

本章では、各種状況(実演の仕事の所得と時間の配分比率・仕事の継続意欲・総拘束時間)別にメンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間の状況についての検討結果を概説する。

4.1 実演の仕事による収入比率・週拘束時間の配分比率別メンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間

4.1.1 実演の仕事の収入比率別メンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間(表 4.1.1)

実演の仕事の収入比率別にメンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間について集計した。

K6 スコアが 10 点以上(うつ・不安障害の疑い(重度を含む))の者の割合は、「50～75%」(12.9%)を底として、実演の仕事による所得の割合が減っても増えても、うつ傾向は悪化していた。

主観的幸福感 5 点未満の割合は、「実演の仕事から収入を得ていない」(12.1%)、「所得の 25%未満(0%を除く)」(7.4%)、「同 25%以上 50%未満」(4.5%)、「同 50%以上 75%未満」(9.4%)、「同 75%以上 100%未満」(6.0%)、「実演の仕事から全収入を得ている」(7.7%)であった。

睡眠時間については、「5 時間未満」の割合は「所得の 25%未満(0%を除く)」(11.1%)を除くと全比率において 10%未満であった。

4.1.2 実演の仕事の拘束時間比率別メンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間(表4.1.2)

実演の仕事の拘束時間比率別にメンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間について集計を行った。

K6 スコアが 10 点以上(うつ・不安障害の疑い(重度を含む))の者の割合は、「実演の仕事に時間を割かない」(24.2%)、「拘束時間 25%未満(0%を除く)」(27.8%)、「同 25%以上 50%未満」(27.3%)、「同 50%以上 75%未満」(21.4%)、「同 75%以上 100%未満」(16.9%)、「実演の仕事に全仕事時間を費やす」(27.2%)であった。

1 点を「全く幸せでない」、10 点を「非常に幸せ」として回答を行う主観的幸福感について 5 点未満の割合は、「実演の仕事に時間を割かない」(15.2%)、「拘束時間 25%未満(0%を除く)」(14.8%)、「同 25%以上 50%未満」(9.1%)、「同 50%以上 75%未満」(5.3%)、「同 75%以上 100%未満」(9.4%)、「実演の仕事に全仕事時間を費やす」(10.7%)であった。

睡眠時間については、「5 時間未満」の割合は「実演の仕事に時間を割かない」(13.8%)、「実演の仕事に全仕事時間を費やす」(11.8%)を除くと全カテゴリーにおいて 10%未満であった。

表4.1.1 実演の仕事の収入比率別メンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間

	実演の仕事から収入を得ていない(0%)		25%未満(0%を除く)		25%以上50%未満		50%以上75%未満		75%以上100%未満		実演の仕事から全収入を得ている(100%)		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
K6 (不安・抑うつ傾向)														
0~4点 (うつ・不安障害の傾向なし)	69	47.9	10	38.5	18	42.9	15	48.4	16	51.6	71	50.4	199	48.0
5~9点 (うつ・不安障害の傾向あり)	39	27.1	9	34.6	16	38.1	12	38.7	9	29.0	39	27.7	124	29.9
10~12点 (うつ・不安障害の疑い)	16	11.1	3	11.5	3	7.1	0	0.0	1	3.2	17	12.1	40	9.6
13点以上 (重度のうつ・不安障害の疑い)	20	13.9	4	15.4	5	11.9	4	12.9	5	16.1	14	9.9	52	12.5
合計	144	100.0	26	100.0	42	100.0	31	100.0	31	100.0	141	100.0	415	100.0
主観的幸福感														
1~2点	7	4.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	3.0	1	0.7	9	2.1
3~4点	11	7.4	2	7.4	2	4.5	3	9.4	1	3.0	10	7.0	29	6.8
5~6点	40	26.8	5	18.5	9	20.5	7	21.9	6	18.2	26	18.3	93	21.8
7~8点	58	38.9	12	44.4	21	47.7	16	50.0	19	57.6	71	50.0	197	46.1
9~10点	33	22.1	8	29.6	12	27.3	6	18.8	6	18.2	34	23.9	99	23.2
合計	149	100.0	27	100.0	44	100.0	32	100.0	33	100.0	142	100.0	427	100.0
睡眠時間														
5時間未満	12	8.1	3	11.1	4	9.1	2	6.3	1	3.0	12	8.4	34	8.0
5~6時間未満	47	31.8	13	48.1	16	36.4	10	31.3	8	24.2	51	35.7	145	34.0
6~7時間未満	57	38.5	9	33.3	12	27.3	11	34.4	15	45.5	50	35.0	154	36.1
7~8時間未満	27	18.2	2	7.4	12	27.3	6	18.8	8	24.2	24	16.8	79	18.5
8~9時間未満	2	1.4	0	0.0	0	0.0	3	9.4	1	3.0	4	2.8	10	2.3
9時間以上	3	2.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.4	5	1.2
合計	148	100.0	27	100.0	44	100.0	32	100.0	33	100.0	143	100.0	427	100.0

表4.1.2 実演の仕事の拘束時間比率別メンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間

	実演の仕事に時間を割かない(0%)		25%未満(0%を除く)		25%以上50%未満		50%以上75%未満		75%以上100%未満		実演の仕事に全仕事時間を費やす(100%)		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
K6 (不安・抑うつ傾向)														
0~4点 (うつ・不安障害の傾向なし)	32	50.0	20	38.5	31	43.1	35	47.3	27	52.9	74	45.1	219	45.9
5~9点 (うつ・不安障害の傾向あり)	17	26.6	17	32.7	23	31.9	24	32.4	17	33.3	45	27.4	143	30.0
10~12点 (うつ・不安障害の疑い)	5	7.8	8	15.4	9	12.5	2	2.7	3	5.9	25	15.2	52	10.9
13点以上 (重度のうつ・不安障害の疑い)	10	15.6	7	13.5	9	12.5	13	17.6	4	7.8	20	12.2	63	13.2
合計	64	100.0	52	100.0	72	100.0	74	100.0	51	100.0	164	100.0	477	100.0
主観的幸福感														
1~2点	5	7.6	2	3.7	2	2.6	0	0.0	1	1.9	4	2.4	14	2.8
3~4点	5	7.6	6	11.1	5	6.5	4	5.3	4	7.5	14	8.3	38	7.7
5~6点	20	30.3	12	22.2	15	19.5	18	24.0	8	15.1	32	19.0	105	21.3
7~8点	21	31.8	25	46.3	37	48.1	32	42.7	31	58.5	78	46.4	224	45.4
9~10点	15	22.7	9	16.7	18	23.4	21	28.0	9	17.0	40	23.8	112	22.7
合計	66	100.0	54	100.0	77	100.0	75	100.0	53	100.0	168	100.0	493	100.0
睡眠時間														
5時間未満	9	13.8	5	9.3	4	5.2	7	9.3	5	9.4	20	11.8	50	10.1
5~6時間未満	16	24.6	18	33.3	35	45.5	22	29.3	17	32.1	52	30.8	160	32.5
6~7時間未満	28	43.1	20	37.0	24	31.2	24	32.0	19	35.8	55	32.5	170	34.5
7~8時間未満	9	13.8	10	18.5	13	16.9	18	24.0	10	18.9	34	20.1	94	19.1
8~9時間未満	1	1.5	0	0.0	1	1.3	4	5.3	2	3.8	6	3.6	14	2.8
9時間以上	2	3.1	1	1.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.2	5	1.0
合計	65	100.0	54	100.0	77	100.0	75	100.0	53	100.0	169	100.0	493	100.0

4.2 芸術・芸能分野の仕事継続意欲別メンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間 (表 4.2)

芸術・芸能分野の仕事継続意欲についての設問は、「仮に、一生の生活に困らないだけの経済的余裕が得られたら、芸術・芸能の仕事はどうしますか。」(選択肢:「1. 変わらず働く」「2. 働く時間を減らす」「3. 働くのをやめる」「4. わからない」)「仮に、芸術・芸能の仕事だけで必要最低限の収入を得られる見込みが将来にわたってまったくないことが分かったらどうしますか。」(選択肢:「1. 変わらず働く」「2. 仕事を減らす」「3. 転職する」「4. わからない」)である。両方答えた者のうちどちらか一方でも「4. わからない」と回答した者を除外し、両設問の合計点(2~6 点)を算出した。ここでは、値が小さい程、どんな状況になろうとも芸術・芸能分野で仕事を継続する意欲を強く持っており、値が高い程、継続意欲は低いと考えられる。合計点から芸術・芸能分野の継続意欲について 2 点を「非常に高い」、3 点を「高い」、4 点を「平均的」、5 点を「低い」、6 点を「非常に低い」と分類して集計を行った。

K6 スコアが 10 点以上(うつ・不安障害の疑い(重度を含む))の者の割合は、「芸術・芸能分野の継続意欲が平均的」(19.1%)の割合が最も低く、「同非常に高い」(23.3%)、「同高い」(24.8%)と業界継続意欲が高い者においても 5 人に 1 人以上がうつ・不安障害の疑い(重度を含む)の者が存在した。なお、「同低い」(31.6%)、「同非常に低い」(70.0%)と業界継続意欲が低くても、うつ・不安障害の疑い(重度を含む)の者の割合も高かったが、メンタルヘルスを悪化させた結果として意欲が低くなってしまった逆相関の可能性やサンプル数が小さい点に留意する必要がある。

主観的幸福感が 5 点未満の割合は、「芸術・芸能分野の継続意欲が平均的」(2.4%)割合が最も低く、「同非常に高い」(10.6%)、「同高い」(7.2%)であった。他方、「同低い」(50.0%)、「同非常に低い」(50.0%)では主観的幸福感が 5 点未満の割合が高かった。

睡眠時間については、5 時間未満の割合は「芸術・芸能分野継続意欲が低い」(13.0%)、「同非常に低い」(40.0%)を除くと全カテゴリーにおいて 10%未満であった。

継続意欲別結果から、メンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間の観点からは平均的な継続意欲を持つ人々が他の意欲状況の人々よりも良好な傾向にあった。

表4.2 継続意欲別メンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間

	芸術・芸能分野 継続意欲が非常に高い		芸術・芸能分野 継続意欲が高い		芸術・芸能分野 継続意欲が平均的		芸術・芸能分野 継続意欲が低い		芸術・芸能分野 継続意欲が非常に低い		合計	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
K6 (不安・抑うつ傾向)												
0~4点 (うつ・不安障害の傾向なし)	93	52.0	53	43.1	42	50.0	18	47.4	1	10.0	207	47.7
5~9点 (うつ・不安障害の傾向あり)	45	25.1	41	33.3	26	31.0	8	21.1	2	20.0	122	28.1
10~12点 (うつ・不安障害の疑い)	20	11.2	17	13.8	5	6.0	8	21.1	0	0.0	50	11.5
13点以上 (重度のうつ・不安障害の疑い)	21	11.7	12	9.8	11	13.1	4	10.5	7	70.0	55	12.7
合計	179	100.0	123	100.0	84	100.0	38	100.0	10	100.0	434	100.0
主観的満足度												
1~2点	5	2.8	3	2.4	0	0.0	11	30.0	3	30.0	13	3.0
3~4点	14	7.8	6	4.8	2	2.4	8	20.0	2	20.0	25	5.7
5~6点	28	15.6	31	24.8	18	21.4	11	30.0	3	30.0	90	20.6
7~8点	78	43.6	52	41.6	48	57.1	4	10.0	1	10.0	202	46.3
9~10点	54	30.2	33	26.4	16	19.0	4	10.0	1	10.0	106	24.3
合計	179	100.0	125	100.0	84	100.0	38	100.0	10	100.0	436	100.0
睡眠時間												
5時間未満	13	7.2	9	7.2	7	8.4	5	13.2	4	40.0	38	8.7
5~6時間	56	31.1	40	32.0	27	32.5	9	23.7	3	30.0	135	31.0
6~7時間	64	35.6	44	35.2	29	34.9	17	44.7	0	0.0	154	35.3
7~8時間	37	20.6	25	20.0	18	21.7	7	18.4	2	20.0	89	20.4
8~9時間	7	3.9	6	4.8	2	2.4	0	0.0	1	10.0	16	3.7
9時間以上	3	1.7	1	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	0.9
合計	180	100.0	125	100.0	83	100.0	38	100.0	10	100.0	436	100.0

4.3 週総拘束時間別メンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間(表 4.3)

週総拘束時間別にメンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間について集計を行った。

K6 スコアが 10 点以上(うつ・不安障害の疑い(重度を含む))の者の割合は、「20 時間未満」(21.2%)において最も低く、その他の時間は「20 時間以上 40 時間未満」(24.2%)、「40 時間以上 60 時間未満」(23.8%)、「60 時間以上」(28.4%)であった。

主観的幸福感が 5 点未満の割合は、「20 時間未満」(8.6%)、「20 時間以上 40 時間未満」(9.9%)、「40 時間以上 60 時間未満」(11.4%)、「60 時間以上」(12.5%)であった。総拘束時間が長い程、主観的幸福感の小さい者の割合が高い傾向にあった。

睡眠時間が 5 時間未満の割合は、「20 時間未満」(4.3%)、「20 時間以上 40 時間未満」(8.7%)、「40 時間以上 60 時間未満」(12.2%)、「60 時間以上」(16.1%)であった。総拘束時間が長い程、睡眠時間が 5 時間未満の割合が高い傾向にあった。

表4.3 週総拘束時間別メンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間

	20時間未満		20時間以上 40時間未満		40時間以上 60時間未満		60時間以上		合計		
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	
K6 (不安・抑うつ傾向)											
0~4点 (うつ・不安障害の傾向 なし)	60	53.1	81	50.3	50	41.0	28	34.6	219	45.9	
5~9点 (うつ・不安障害の傾向 あり)	29	25.7	41	25.5	43	35.3	30	37.0	143	30.0	
10~12点 (うつ・不安障害の疑い)	11	9.7	17	10.6	11	9.0	13	16.1	52	10.9	
13点以上 (重度のうつ・不安障害 の疑い)	13	11.5	22	13.7	18	14.8	10	12.4	63	13.2	
合計	113	100.0	161	100.0	122	100.0	81	100.0	477	100.0	
主観的幸福感											
1~2点	1	0.9	4	2.5	7	5.7	1	1.3	13	2.7	
3~4点	9	7.8	12	7.4	7	5.7	9	11.3	37	7.7	
5~6点	22	19.0	34	21.0	29	23.6	18	22.5	103	21.4	
7~8点	51	44.0	75	46.3	54	43.9	37	46.3	217	45.1	
9~10点	33	28.5	37	22.8	26	21.1	15	18.8	111	23.1	
合計	116	100.0	162	100.0	123	100.0	80	100.0	481	100.0	
睡眠時間											
5時間未満	5	4.3	14	8.7	15	12.2	13	16.1	47	9.8	
5~6時間未満	29	25.0	48	29.8	44	35.8	34	42.0	155	32.2	
6~7時間未満	44	37.9	60	37.3	41	33.3	21	25.9	166	34.5	
7~8時間未満	31	26.7	35	21.7	21	17.1	7	8.6	94	19.5	
8~9時間未満	5	4.3	3	1.9	1	0.8	5	6.2	14	2.9	
9時間以上	2	1.7	1	0.6	1	0.8	1	1.2	5	1.0	
合計	116	100.0	161	100.0	123	100.0	81	100.0	481	100.0	

5 心理的負荷のある出来事の経験の有無による違い

心理的負荷のある出来事 30 項目の経験の有無別に K6 スコアと、主観的幸福感の平均得点を算出した。また、その経験の有無で平均得点に統計学的な有意差検定を以下の回帰式を用いて分析した。

$$Y_i = \beta_0 + \beta_1 \text{EventExperience}_i + \beta_2 \text{Hour}_i + \beta_3 \text{Income}_i + \beta_4 \text{MiddleMale}_i \\ + \beta_5 \text{OldMale}_i + \beta_6 \text{YoungFemale}_i + \beta_7 \text{MiddleFemale}_i \\ + \beta_8 \text{OldFemale}_i + u_i$$

サブスクリプト i : 個人

変数 Y_i : K6 スコアの総得点 or 主観的幸福感の得点

EventExperience_i : 心理的負荷のある出来事経験ありを示すダミー変数

Hour_i : 総拘束時間

Income_i : 総収入

MiddleMale_i : 40～50 代男性を示すダミー変数

OldMale_i : 60 代以上男性を示すダミー変数

YoungFemale_i : 30 代以下女性を示すダミー変数

MiddleFemale_i : 40～50 代女性を示すダミー変数

OldFemale_i : 60 代以上女性を示すダミー変数

u_i : 誤差項

上記の重回帰分析を行い、係数値 β_1 に対して t 検定を行った結果を表 5.1 並びに表 5.2 に示した。統計的な有意水準は $p < 0.05$ とした。

5.1 各種心理的負荷のある出来事の経験の有無とメンタルヘルス(表 5.1)

30 項目全てにおいては心理的負荷のある出来事の経験がある群の、K6 スコアの平均得点が高かった。回帰分析の結果、「恥ずかしいと感じるほどの体の露出をさせられた」、「仕事の発注元・支払元または大元請けが分からない」、「自分の仕事を指揮しているのが誰かが分からない」、「視聴率が取れるか、チケットノルマ、観客動員数が達成できるかなどの成果が心配である」の4項目を除いた 26 項目において統計的に正の有意な差異が認められた。K6 スコアが高いほどメンタルヘルスが悪いと評価されるため、心理的負荷のある出来事を経験した者のメンタルヘルスは悪化していると解釈され、今回の設問のほとんどの項目が該当した。係数の大きい上位5項目は、「仕事上の友人と腹を割って話せない」(5.57)、「性的関係を迫られた」(4.36)、「頼れる人が身近にいない」(4.17)、「仕事上の友人と自由に交流できない」(4.00)、「羞恥心を感じる性的な実演をしなければならない」(3.47)であった。

5.2 各種心理的負荷のある出来事の経験の有無と主観的幸福感(表 5.2)

30 項目中「羞恥心を感じる性的な実演をしなければならない」を除いた 29 項目において、心理的負荷のある出来事の経験がある群の、主観的幸福感の平均得点が低かった。ただし、統計的な有意な差異が認められた項目は 11 項目のみであり、他の項目は有意差が認められなかった。統計的有意差が認められない項目は多いものの、正の有意差が見られずに有意な項目の係数は負に有意であり、一部の心理的負荷のある出来事を経験した者の主観的幸福感は低いと解釈され、今回の設問の 11 項目がそれに該当した。係数の大きい上位 5 項目は、「頼れる人が身近にいない」(-1.43)、「仕事上の友人と腹を割って話せない」(-1.33)、「怪我や急病時には必要な対応をしてもらえなかった」(-1.13)、「自分に才能があるか自信がない」(-1.00)、「性的関係を迫られた」(-0.92)であった。

表5.1 心理的負荷のある出来事30項目の経験の有無とメンタルヘルス

	K6平均得点 (経験有り)	K6平均得点 (経験無し)	回帰分析の 係数値
怪我や急病時には必要な対応をしてもらえなかった	8.0	5.6	2.31**
危険を感じる場面や場所での実演や設営をしなければならない	7.4	5.6	1.38*
実演、創作等のため、不自然な姿勢を長時間取らなければならない	7.7	5.1	2.24***
自分の職場の安全衛生管理者（仕事上の事故防止や働く人の健康管理をする人）が誰か分からない	7.1	5.2	1.68**
着替えをする場所が提供されないために嫌な思いをした	7.4	5.6	1.77*
仕事中にトイレが見つからない	9.2	5.6	3.24***
尿意を催しても我慢しなければならない	7.4	5.5	1.71**
仕事の関係者から殴られた、蹴られた、叩かれた、または怒鳴られた	8.3	5.4	2.46***
仕事の関係者に、心が傷つくことを言われた	7.2	4.8	2.15***
恥ずかしいと感じるほどの体の露出をさせられた	8.8	5.8	2.65
仕事の関係者に必要以上に身体を触られた	9.1	5.6	3.20**
羞恥心を感じる性的な実演をしなければならない	9.7	5.8	3.47*
性的関係を迫られた	10.0	5.6	4.36***
同僚や仲間が急にやせ細った	7.6	5.6	1.62*
同僚や仲間が音信不通になったり、突然現場に来なくなることがあった	7.1	5.4	1.36*
同僚や仲間が自殺した	8.0	5.7	2.55*
事前に聞かされていない、許容しがたい実演や創作等を求められることがある	8.9	5.5	3.23***
仕事の発注元・支払元または大元請けが分からない	6.0	5.8	-0.19
自分の仕事を指揮しているのが誰かが分からない	7.4	5.7	1.40
業界の慣習で言いたいことを自由に言えない	7.6	5.0	2.38***
次の仕事があるか不安である	6.9	4.3	2.42***
自分に才能があるか自信がない	8.3	4.7	3.19***
視聴率が取れるか、チケットノルマ、観客動員数が達成できるかなどの成果が心配である	6.5	5.5	0.70
仕事や活動の関係者とトラブルになった	7.7	5.3	2.26***
自分の仕事が他人の成果として評価されたことがある	7.2	5.6	1.41*
仕事上の友人と自由に交流できない	10.3	5.7	4.00**
仕事上の友人と腹を割って話せない	10.9	5.1	5.57***
付き合いたくない人と付き合いなければならない	7.9	4.8	2.95***
頼れる人が身近にいない	9.7	5.3	4.17***
発注者から支給される食事（ロケ弁等）が脂っこい	8.0	5.6	2.53**
n			410

(注)検定においては、総拘束時間、総収入、年齢性別で調整したt検定を行った。*はそれぞれ* p<0.05, ** p<0.01, *** p<0.001の有意性を示す。

表5.2 心理的負荷のある出来事30項目の経験の有無と主観的幸福感

	主観的幸福感 平均得点 (経験有り)	主観的幸福感 平均得点 (経験無し)	回帰分析の 係数値
怪我や急病時には必要な対応をしてもらえなかった	5.9	7.3	-1.380***
危険を感じる場面や場所での実演や設営をしなければならない	6.4	7.2	-0.482*
実演、創作等のため、不自然な姿勢を長時間取らなければならない	6.7	7.3	-0.649***
自分の仕事場の安全衛生管理者（仕事上の事故防止や働く人の健康管理をする人）が誰か分からない	6.6	7.4	-0.765***
着替えをする場所が提供されないために嫌な思いをした	6.7	7.2	-0.606*
仕事中にトイレが見つからない	6.2	7.2	-0.809*
尿意を催しても我慢しなければならない	6.7	7.2	-0.337
仕事の関係者から殴られた、蹴られた、叩かれた、または怒鳴られた	6.3	7.3	-0.843***
仕事の関係者に、心が傷つくことを言われた	6.7	7.4	-0.684***
恥ずかしいと感じるほどの体の露出をさせられた	6.6	7.1	-0.281
仕事の関係者に必要以上に身体を触られた	6.4	7.2	-1.012**
羞恥心を感じる性的な実演をしなければならない	6.4	7.1	-0.818
性的関係を迫られた	6.1	7.2	-1.192***
同僚や仲間が急にやせ細った	6.7	7.2	-0.476
同僚や仲間が音信不通になったり、突然現場に来なくなることがあった	6.6	7.3	-0.595**
同僚や仲間が自殺した	6.5	7.2	-0.540
事前に聞かされていない、許容しがたい実演や創作等を求められることがある	6.2	7.2	-0.924***
仕事の発注元・支払元または大元請けが分からない	6.3	7.2	-0.584*
自分の仕事を指揮しているのが誰かが分からない	6.5	7.2	-0.507
業界の慣習で言いたいことを自由に言えない	6.7	7.3	-0.513**
次の仕事があるか不安である	6.7	7.6	-0.750***
自分に才能があるか自信がない	6.4	7.4	-0.942***
視聴率が取れるか、チケットノルマ、観客動員数が達成できるかなどの成果が心配である	6.9	7.2	-0.400*
仕事や活動の関係者とトラブルになった	6.6	7.3	-0.550**
自分の仕事が他人の成果として評価されたことがある	6.7	7.2	-0.477*
仕事上の友人と自由に交流できない	5.7	7.2	-1.372***
仕事上の友人と腹を割って話せない	5.9	7.3	-1.442***
付き合いたくない人と付き合いなければならない	6.6	7.3	-0.673***
頼れる人が身近にいない	5.8	7.3	-1.598***
発注者から支給される食事（口ケ弁等）が脂っこい	6.9	7.1	-0.216
n			515

(注)検定においては、総拘束時間、総収入、年齢性別で調整したt検定を行った。*はそれぞれ* p<0.05, ** p<0.01, *** p<0.001の有意性を示す。

芸術・芸能(実演)分野に従事する方の働き方に関する調査票

Q1. あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

1. 男性	2. 女性	3. 答えたくない
-------	-------	-----------

Q2. あなたの年齢をお答えください。(○は1つ)

1. 20歳未満	2. 20～29歳	3. 30～39歳
4. 40～49歳	5. 50～59歳	6. 60～64歳
7. 65歳～74歳	8. 75歳以上	

Q3. あなたの芸術・芸能(実演)分野に従事するようになってからの活動年数を教えてください。
 _____年

Q4. あなたの仕事の主な分野として該当するものをお答えください。(○は1つ)

1. 俳優(役者、タレント、芸人等)	
2. 声優	
3. 演芸家(落語家、漫才師、奇術師、司会、大道芸人等)	
4. 音楽家(歌手、謡い手、演奏家、作詞・作曲家等)	
5. 舞踊家(日本舞踊、バレエダンサー、ダンサー等)	
6. モデル	7. スタントマン
8. 美術家	9. 映像作家
10. 作家、漫画家	11. その他()

Q5. あなたの仕事の受け方について、以下のうち、おおむねあてはまるものに○印をつけてください。(○はいくつでも)。所属事務所を通じて仕事を受ける場合は、所属事務所とあなたのやりとりについてご回答ください。

	あてはまるものに○印
(1) 仕事を受けるか否かを自分で決めることができる。	
(2) 仕事を拒否すると今後他の仕事のオファーが来なくなるおそれがあるので、仕事を受けるか否かを自分で決めることができない。	
(3) 通常指示される大枠の部分以外で、最終的な演技や創作の表現の過程・方法は自分で決めることができる。	
(4) 楽屋・アトリエ・制作現場等に入る時間、出る時間、休憩時間は自分で決めることができる。	
(5) 受けた仕事をするにあたり、自分の判断で、自分の代わりに者に仕事をさせることができる。	
(6) 受けた仕事をするにあたり、必要に応じて、補助者(専属スタッフ、アシスタント等)をつけたり、従事する人数を増やしたりすることを自分で決めることができる。	
(7) 報酬額について、仕事の発注者と直接又は所属事務所を通じて交渉することができる。	
(8) 報酬は、打ち合わせや稽古等に要した時間によらず、作品の完成や舞台の完遂によって定められている。	
(9) 仕事に必要な衣装、材料、道具(メイク用品、楽器、パソコンなどを含む)は、自前で用意している。	
(10) 仕事の発注者(所属事務所、画廊など)からは、他社や他の芸能事務所等の仕事を受けないように言われている。	

Q6. 以下のうち、あてはまるものに○印をつけてください(○はいくつでも)。

	あてはまるものに ○印
(1) 自ら事務所を構えていて、自分が出演などをする仕事は事務所として受注している。	
(2) 実演の仕事の収入は、事業所得または雑所得として自分で確定申告している。	

Q7. 仕事の時間についておたずねします。

(1) 過去 1 か月に仕事が全くない休日(事務所や発注側からのスケジュールが入っていないオフの日)は何日ありましたか。

1 か月間に _____ 日

(2) 過去 1 か月に事務所や発注側からのスケジュールが入っていないものの、自主的に役作りや稽古、楽器・道具などの手入れなどをした日は何日ありましたか。

1 か月間に _____ 日

(3) 先週 1 週間の間に、芸術・芸能分野の実演の仕事やその準備・稽古のために拘束された時間(自宅と仕事先の移動時間は除きます)は何時間でしたか。また、それによって得られる収入は、1 週間あたりに換算するとおおよそいくらですか。ない場合は0とご記入下さい。

1 週間で _____ 時間 およそ _____ 万 _____ 千円

(4) 上記(3)の実演の仕事以外に、芸術・芸能に関連した仕事(ワークショップなどの指導、教える仕事、所属団体の事務・関連事業など)をすることはありますか。ある場合は、それらに先週 1 週間の間にかかった総時間と、得られたおおよその収入をお答えください。ない場合は0とご記入下さい。

1 週間で _____ 時間 およそ _____ 万 _____ 千円

(5) 芸術・芸能分野とは別の分野の仕事をすることはありますか。ある場合は、それに先週 1 週間の間にかかった総時間と、得られたおおよその収入をお答えください。ない場合は0とご記入下さい。

1 週間で _____ 時間 およそ _____ 万 _____ 千円

Q8. 仕事や活動の開始・終了時刻を自分でどのくらい調整できますか。(○は1つ)

1. まったくできない	2. めったにできない	3. ときどきはできる	4. ほぼできる
-------------	-------------	-------------	----------

Q9. 仮に、一生の生活に困らないだけの経済的余裕が得られたら、芸術・芸能(実演)分野の仕事はどうしますか。(○は1つ)

1. 変わらず働く	2. 働く時間を減らす	3. 働くのをやめる	4. わからない
-----------	-------------	------------	----------

Q10. 仮に、芸術・芸能(実演)分野の仕事だけで必要最低限の収入を得られる見込みが将来にわたってまったくなく分かったら、どうしますか。(○は1つ)

1. 変わらず芸能業界で働く	2. 芸能業界の仕事 を減らす	3. 転職する	4. わからない
----------------	--------------------	---------	----------

Q11.あなたの仕事の場において、以下のようなことはありますか。あてはまるものに○印をつけてください。
(○はいくつでも)

	あてはまるものに ○印
(1) 怪我や急病時には必要な対応をしてもらえなかった。	
(2) 危険を感じる場面や場所での実演や設営をしなければならない。	
(3) 実演、創作等のため、不自然な姿勢を長時間取らなければならない。	
(4) 自分の仕事場の安全衛生管理者(仕事上の事故防止や働く人の健康管理をする人)が誰か分からない。	
(5) 着替えをする場所が提供されないために嫌な思いをした。	
(6) 仕事中にトイレが見つからない。	
(7) 尿意を催しても我慢しなければならない。	
(8) 仕事の関係者から殴られた、蹴られた、叩かれた、または怒鳴られた。	
(9) 仕事の関係者に、心が傷つくことを言われた。	
(10) 恥ずかしいと感じるほどの体の露出をさせられた。	
(11) 仕事の関係者に必要以上に身体を触られた。	
(12) 羞恥心を感じる性的な実演をしなければならない。	
(13) 性的関係を迫られた。	
(14) 同僚や仲間が急にやせ細った。	
(15) 同僚や仲間が音信不通になったり、突然現場に来なくなるがあった。	
(16) 同僚や仲間が自殺した。	
(17) 事前に聞かされていない、許容しがたい実演や創作等を求められることがある。	
(18) 仕事の発注元・支払元または大元請けが分からない。	
(19) 自分の仕事を指揮しているのが誰かが分からない。	
(20) 業界の慣習で言いたいことを自由に言えない。	
(21) 次の仕事があるか不安である。	
(22) 自分に才能があるか自信がない。	
(23) 視聴率が取れるか、チケットノルマ、観客動員数が達成できるかなどの成果が心配である。	
(24) 仕事や活動の関係者とトラブルになった。	
(25) 自分の仕事が他人の成果として評価されたことがある。	
(26) 仕事上の友人と自由に交流できない。	
(27) 仕事上の友人と腹を割って話せない。	
(28) 付き合いたくない人と付き合いなければならない。	
(29) 頼れる人が身近にいない。	
(30) 発注者から支給される食事(ロケ弁等)が脂っこい。	

Q12. ふだん、夜に何時間眠りますか。(○は1つ)

1. 5時間未満	2. 5時間～6時間未満	3. 6時間～7時間未満
4. 7時間～8時間未満	5. 8時間～9時間未満	6. 9時間以上

Q13. 仕事(副業や仕事のためのトレーニングを含む)で身体を動かすこと(軽く汗をかく程度)はありますか。(○は1つ)

1. あまりない	2. 月に数回程度	3. 週に1回以上・ 1週間計60分未満	4. 週に1回以上・ 1週間計60分以上
----------	-----------	-------------------------	-------------------------

Q14. Q13以外で余暇や家事などで身体を動かすこと(軽く汗をかく程度)はありますか。(○は1つ)

1. あまりない	2. 月に数回程度	3. 週に1回以上・ 1週間計60分未満	4. 週に1回以上・ 1週間計60分以上
----------	-----------	-------------------------	-------------------------

Q15. どのくらいの頻度で飲酒をしますか。(○は1つ)

1. 飲まない	2. 週1～2日程度	3. 週3～5日程度	4. ほぼ毎日
---------	------------	------------	---------

Q16. たばこは吸っていますか(電子たばこも含みます)。(○は1つ)

1. 吸わない	2. 過去に吸っていた	3. 吸っている
---------	-------------	----------

Q17. 次の項目について、過去1か月間の状況についてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

	全くない	少しだけ	ときどき	たいてい	いつも
(A) 神経過敏に感じましたか	0	1	2	3	4
(B) 絶望的だと感じましたか	0	1	2	3	4
(C) そわそわ、落ち着かなく感じましたか	0	1	2	3	4
(D) 気分が沈みこんで、何か起こっても気が晴れないように感じましたか	0	1	2	3	4
(E) 何をするのも骨折りだと感じましたか	0	1	2	3	4
(F) 自分は価値のない人間だと感じましたか	0	1	2	3	4

Q18. 次の3つの質問文は、仕事に関してどう感じているかを記述したものです。

各文をよく読んで、あなたが仕事に関してそのように感じているかどうかを判断してください。そのように感じたことが一度もない場合は0(ゼロ)を、感じたことがある場合はその頻度にあてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	全くない	ほとんど感じない	めったに感じない	時々感じる	よく感じる	とてもよく感じる	いつも感じる
(A) 仕事をしていると、活力がみなぎるように感じる	0	1	2	3	4	5	6
(B) 仕事に熱心である	0	1	2	3	4	5	6
(C) 私は仕事にのめり込んでいる	0	1	2	3	4	5	6

Q19.あなたは過去1年間に定期健康診断・人間ドックを受けましたか。(○は1つ)

- | | | |
|--------|-----------|-----------------|
| 1. 受けた | 2. 受けていない | 3. 覚えていない・分からない |
|--------|-----------|-----------------|

■ ふだんのあなたのようなすについて、もっとも近いものを選んで下さい。

Q20.日頃、落ち着きや安心感をもつことはできますか。(○は1つ)

- | | | | |
|-------------|--------|----------|---------|
| 1. まったくもてない | 2. すこし | 3. たいがいは | 4. いつでも |
|-------------|--------|----------|---------|

Q21.日頃、愛情や友情、支援は得られていますか。(○は1つ)

- | | | | |
|--------------|--------|----------|----------|
| 1. まったく得られない | 2. すこし | 3. わりに多く | 4. とても多く |
|--------------|--------|----------|----------|

Q22.日頃、自立できていますか。(○は1つ)

- | | | | |
|-----------------|----------|-----------|--------|
| 1. まったく自立できていない | 2. いくらかは | 3. 多くのことで | 4. 完全に |
|-----------------|----------|-----------|--------|

Q23.日頃、達成感や成長を感じられますか。(○は1つ)

- | | | | |
|-------------|--------|----------|---------|
| 1. まったく感じない | 2. すこし | 3. たいがいは | 4. いつでも |
|-------------|--------|----------|---------|

Q24.日頃、楽しみや喜びを感じられますか。(○は1つ)

- | | | | |
|-------------|--------|----------|----------|
| 1. まったく感じない | 2. すこし | 3. わりに多く | 4. かなり多く |
|-------------|--------|----------|----------|

Q25.「非常に幸せ」を10点、「全く幸せでない」を1点としたら、あなたはどのくらい幸せだと思いますか?(○は1つ)

←全く幸せでない

非常に幸せ→

- | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|

Q26.最後に卒業した学校はどれですか。(在学中の方は現在のもの) (○は1つ)

- | | | |
|---------------|----------|---------|
| 1. 小・中学校 | 2. 高校 | 3. 専門学校 |
| 4. 短大・高専 | 5. 大学 | 6. 大学院 |
| 7. その他(養成所など) | 8. 回答しない | |

Q27.現在配偶者はいますか。(○は1つ)

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. いる | 2. いない(未婚) | 3. いない(離婚) |
| 4. いない(死別) | 5. 回答しない | |

Q28.何人暮らしですか(ご自身を含めてください)。(○は1つ)

- | | | |
|---------|----------|-------|
| 1. 1人 | 2. 2人 | 3. 3人 |
| 4. 4人以上 | 5. 回答しない | |

Q29.昨年1年間(2021年1月~12月)の、世帯全体の年間収入(税込み・公的年金含む)はどのくらいですか。(○は1つ)

- | | | | |
|--------------|--------------|-----------------|--------------|
| 1. 100万円未満 | 2. 100~199万円 | 3. 200~299万円 | 4. 300~399万円 |
| 5. 400~499万円 | 6. 500~599万円 | 7. 600~699万円 | 8. 700~799万円 |
| 9. 800~899万円 | 10. 900万以上 | 11. わからない・回答しない | |

これで調査は終わりです。ご協力ありがとうございました。